

ドイツ女性の生き方を探る旅
男女共同参画スタディーツアー



主催：とちぎつばさの会 海外研修実行委員会

ドイツ女性の生き方を探る旅

「男女共同参画スタディーツアー」の実現

実行委員長 梅 澤 啓 子



平成27年10月25日成田発10：30分の便で、参加者14名は胸を弾ませ機上の人となった。県の海外研修が幕を閉じ、ノルウェー、デンマークそして3度目のドイツ研修である。26年10月に実行委員会を立ち上げ今回の計画を練った。これまで男女平等を推進しているノルウェーやデンマークの女性の生き方を学んできたが、どの様に自分たちの生活に取り込んだら良いのか、いまだに世界から見た日本の「男女共同参画社会」の遅れに、日々思案を重ねた。募集した会員も15名になった。そんな中で仲間の一人から“日本と同じ敗戦国であり、西ドイツでは男尊女卑がまだまだ残っている現状を見ながら、女性が頑張って男女平等を進めているドイツから学ぶことが良いのでは”との提案が出され、少しでも手の届く所から始められたらとの合意があった。また、日本でも来年始まる「選挙権年齢18歳以上」が論議され、何も学びのない中で選挙年齢を引き下げた日本のやり方に疑問を持ち、ドイツの展開している政治教育がどのようなものを学びたいということもあり、今回のスタディーツアーの実施となった。しかし、難民問題が起き、危険ではないかと一時断念。一か月ほど様子を見て再開した研修であった。研修先もベルリンのみとした。

9月半ばを過ぎても研修場所がなかなか決まらず、焦りさえ覚えた。日本と違って鷹揚なドイツ人は、夏休みだと言って仕事を休んでいた。考えてみればノルウェーやデンマークの時もそうだったように思う。やっと決まったのが9月末、それまでに通訳さんを通して研修場所の距離から市内バスや電車の移動を考えたり、食事場所の調整をして節約旅行を計画してきた。ベルリン日独センター、在ドイツ日本大使館、ベルリン州政治教育センター、女性起業家センター、ベルリン州政治教育センター、ベルリン市議会議員との懇談と館内見学、ドイツ連邦議会議員との懇談と館内見学、ベルリン・エネルギー・エイジェンシー、ポツダム大学教授と懇談等が決定した。

戦後ドイツは、複雑な生き方をしてきた。資本主義と社会主義の思想を持つ国々の統治をへて、25年前に統一されたというドイツ。女性が働くことに何の疑問も持たない東側の国民と、女性の役割は家の中にいて幼児を育てるのが当たり前と考える西側の国民の葛藤が、今も続いているというドイツ。働きに応じた年金支給になっているので、かつて主婦だった人々は生活に見合った額を手でできず、苦しい生活をしているというドイツ。しかし、わが日本と比べると一歩も二歩も前を歩いているのはなぜかを学びたいと思う。

ドイツの政治教育は、学校の中と外で、年齢に応じた教育が行われていて、日本の様に学校内は禁止ではなく、目的は民主主義を教え、民主主義を守ることであって、教え方も、一人ひとりに考えさせていくというやり方であるという。メルケル首相の元で国を挙げて行われている政治力に出会えたらと思う。詳細については、後半にある現地研修の記録をお読みください。この記録も参加者全員で頭をよせ合い作成したものです。

自主的に立ち上げた今回の研修は、また、私たちに大きな学びを与えてくれた。中でも驚かされたのは、訪問先すべての場所で、平等に自らの権利を主張しようと頑張っている女性たちに会えたことだ。政治教育は男女平等はもちろんのこと、子供の教育多様性を尊重することを目的に展開されていた。ドイツの女性たちは犠牲にされてきた自分たちの権利を勝ち取ろうと頑張っていた。しっかり自立をし、自分だけではなく全ての国民の上に立った幸せを考えていた。私たちがまずそこから考えていこうと思う。そこを目指す仲間と共に。

目 次

| | |
|--|---------|
| 訪問国の概要 | 3 |
| ドイツ現地研修・日程表 | 4 |
| 事前研修の記録 | 5 |
| 学習会 講師 近藤孝弘氏 「ドイツは民主主義の能力をどう育てているか」 | 6 |
| 視察研修 那須塩原市立塩原小中学校 講話 校長 高久昭彦氏 「小中一貫校の目指す教育」 | 8 |
| NWEC フォーラム 講演会参加 講師：横浜市長 林文子氏 演題：超成熟社会の鍵は“女” | 10 |
| ワークショップ参加 「男女共同参画スタディーツアーで学んだ先進国の女性と男性の生き方を話し合う」 | |
| 現地研修の記録 | |
| ベルリン日独センター | 12 |
| 在ドイツ日本国大使館 | 13 |
| 女性起業家センター | 14 |
| ベルリン州政治教育センター | 15 |
| ベルリン市議会議員と懇談、館内見学 | 16 |
| ドイツ連邦議会議員と懇談 | 17 |
| ベルリン・エネルギー・エージェンシー | 18 |
| ポツダム大学 教授と懇談 | 19 |
| ドイツ連邦議会議事堂見学、ベルリン市役所見学、コンサート鑑賞 | 20 |
| ドイツの歴史 ユダヤ人犠牲者記念館、ブランデンブルク門、ベルリンの壁跡地、等 | 21 |
| ツェツィーリエンホーフ宮殿（ポツダム会談会場）、サンスーシ宮殿 見学 | 22 |
| 参加者の成果記録 | |
| 相 川 美名子 | 23 |
| 白 井 優 子 | 25 |
| 遠 藤 照 子 | 27 |
| 川 井 正 枝 | 39 |
| 酒 井 理 帆 | 31 |
| 中 里 聖 子 | 33 |
| 橋 本 房 子 | 35 |
| 荒 川 栄 子 | 24 |
| 梅 澤 啓 子 | 26 |
| 大 堀 美 知 | 28 |
| 酒 井 由 理 | 30 |
| 寺 内 政 子 | 32 |
| 橋 本 薫 | 34 |
| 人 見 貞 子 | 36 |
| アラカルト | |
| ドイツの生活文化 ベルリンウォッチング | 37 |
| 輝いている女性達 お世話になった方達 | 38 |
| 事後研修の記録 | 39 |
| 参加者名簿、実行委員会名簿、編集後記 | 40 |
| 資料 | |
| 募集チラシ | 41 |
| 成果発表会のチラシ | 42 |
| 事前・事後展示物ポスター | 43 |
| 表紙 | ドイツ連邦議会 |

訪問国の概要

ドイツ連邦共和国 (Federal Republic of Germany)

人口 8,094万人(2014年)

面積 35.7万平方km (日本の約94%) 9ヶ国と隣接

首都 ベルリン (約343万人)

民族 ゲルマン系ドイツ民族(在留外国人約470万人)

宗教 主にキリスト教 (カトリック、プロテスタント)

国歌 ハイドン弦楽四重奏「皇帝」

国旗 黒 (人権)、赤 (自由)、金 (真理)

平均年齢 男性77歳 女性82歳

食料自給率 93% (日本39%)

政治体制

政体 議会制民主主義の連邦共和制 (16州) 各州それぞれが、憲法・議会・政府を有する。

元首 ヨアヒム・ガウク大統領 (2012年3月18日選出、任期5年) ドイツ福音主義教会牧師。

ドイツ連邦大統領は、国を代表する。その権限は、儀礼的・形式的なもの。

議会 二院制 (但し、連邦議会と比べて連邦参議院の権限は限られている)

(1)連邦議会 任期4年、現在631議席、小選挙区制を加味した比例代表制の直接選挙により選出。

(2)連邦参議院 69議席、各州政府の代表により構成。

首相 アンゲラ・メルケル (キリスト教民主同盟) 2005年11月より4期目。旧東独出身。

連立政権 CDU (キリスト教民主同盟) ・CSU (キリスト教社会同盟) ・SPD (社会民主党)

選挙権 18歳以上の成人。地方選挙では16歳以上のところもある。

教育の概要

義務教育期間 6歳~15歳 (9年間) 9月から始まる

学校制度 基礎学校4年間 (ベルリンとブランデンブルクの2つの州は6年間)

第5学年から基幹学校・実科学校・ギムナジウムに分かれる。3つを合わせた総合学校もあり。

基幹学校は9年生15歳で卒業。職人や会社のもとで訓練を受ける。

実科学校は10年生16歳で卒業。中級卒業資格を得て、特殊な職業や専門学校へ進む。

ギムナジウムは12年生18歳で卒業。通常9年間勉強してアビトゥア (大学入学資格試験) を取り専門分野に進学。

就学前教育 幼稚園3歳から。保育所は2歳以下の子供。

統計資料

☆世界ジェンダー格差指数 (ジェンダー・ギャップ) 世界経済フォーラム (2014年)

世界各国の男女平等の度合いについて次の4分野の男女格差を測定したもの。

経済活動の参加と機会、教育、健康と生存、政治への関与 (意思決定機関への参画)

①アイスランド ②フィンランド ③ノルウェー ……⑫ドイツ …… ⑭日本 ……142ヶ国中

☆ジェンダー・エンパワーメント指数 (GEM) 2009年

女性が社会的、政治的、経済的にどのくらいの力を持っているかを3分野で見ようとするもの。

男女の国会議員比率、男女の専門職・技術職比率と管理職の比率・男女の推定勤労所得

①スウェーデン ②ノルウェー ③フィンランド …… ⑨ドイツ ……⑤⑦日本 ……109ヶ国中

☆国会の女性議員割合ランキング 2015年版

①ルワンダ (57.5%) ②ボリビア (51.8%) ⑬ノルウェー (39.6%) ⑳ドイツ (36.9%) ⑳日本 (11.6%)



ドイツ現地研修・日程表

| 月日 | 時間 | 交通機関 | 研 修 先 等 | 食 事 |
|--------------|--|---------------------------|---|-----------------------|
| 10/25 (日) | 8:25 10:30 14:25 17:15 18:45 20:00 | LH711 LH168 専用車 | 成田集合 成田発 フランクフルト着、乗継 フランクフルト発 ベルリン着 専用車にてホテルへ 夕食 (ホテル) ベルリン 泊 | 朝 × 昼 機内 夕 ホテル |
| 26 (月) | 9:00 10:00 12:00 14:30 16:30 19:00 | 公共交通 | ホテル発 ベルリン日独センター (講話と懇談) 昼食 (センター内食堂) 在ドイツ日本国大使館 (講話と懇談) ~ 15:40 女性起業家センター (講話と懇談) ~ 18:15 夕食、スイス料理 ベルリン 泊 | 朝 ホテル 昼 外食 夕 外食 |
| 27 (火) | 9:00 10:00 12:15 13:30 14:30 18:30 20:30 | 公共交通 | ホテル発 ベルリン政治教育センター (講話と懇談) ~ 11:30 昼食、ドイツ料理 ベルリン市議会 (訪問と館内見学) ~ 14:30 〃 (副議長と懇談) ~ 16:00 コンサート鑑賞 (在ドイツ日本国大使館内において) 夕食、ドイツ料理 ベルリン 泊 | 朝 ホテル 昼 外食 夕 外食 |
| 28 (水) | 9:00 10:30 11:00 14:00 15:00 17:00 18:30 | 公共交通 | ホテル発 市内見学 ドイツ連邦議会セキュリティチェック ドイツ連邦議会 (議員と懇談、館内見学) ~ 13:30 昼食、日本料理 ベルリン・エネルギー・エージェンシー (講話と懇談) ~ 16:30 ベルリン市役所見学 夕食、ドイツ料理 ベルリン 泊 | 朝 ホテル 昼 外食 夕 外食 |
| 29 (木) | 9:00 10:00 11:30 13:10 14:40 17:00 19:00 | 専用車 | ホテル発 ポツダム大学 (教授講話と懇談) 昼食、ドイツ料理 (大学内食堂) ツェツィーリエンホーフ宮殿 (入場) (世界遺産) 城内見学、ポツダム会談会場見学 サンスーシー宮殿 (入場) (世界遺産) 城内見学、庭園見学 市内見学 夕食、ドイツ料理 ベルリン 泊 | 朝 ホテル 昼 外食 夕 外食 |
| 30 (金) | 7:30 9:45 11:00 13:35 | 専用車 LH181 LH710 | 専用車にて空港へ ベルリン発 フランクフルト着、乗継 フランクフルト発 機内 泊 | 朝 ホテル 昼 外食 夕 機内 |
| 31(土) | 9:05 | | 成田着、成田解散 | 朝 機内 |

事前研修の記録

第1回事前研修

日時 2015年6月7日(日)

場所 とちぎ男女共同参画センター

1. オリエンテーション

自己紹介

研修日程、予算、報告書 等について

2. 学習会

講師 近藤 孝弘氏 (大学教授)

演題 「ドイツは民主主義の能力をどう育てているか」

第2回事前研修

日時 2015年7月10日(金)

場所 塩原小中学校、かもしか荘 他

1. 塩原小中学校(小中学校一貫校)訪問、講話

講師 高久 昭彦氏 (一貫校 校長)

演題 「共に生きる・自分を磨き人に優しい児童生徒の育成」



2. ビジターセンター見学

塩原の自然を学習

3. 事前打ち合わせ

現地研修の予定、役割分担、報告書作成、

グループ編成、非常時の対応、

事前展示物の作成、 等



第3回事前研修

日時 2015年8月20日(木)

場所 独立行政法人 国立女性教育会館

1. NWECフォーラム研修

講師 林 文子氏 (横浜市長)

演題 超成熟社会の鍵は“女性”

2. ワークショップ

発表と意見交換

タイトル

「男女共同参画スタディーツアーで学んだ
先進国の女性と男性の生き方を話し合う」
ノルウェー研修をパワーポイントで紹介
ノルウェーとデンマークの研修成果を報告



第4回事前研修

日時 2015年9月6日(日)

場所 宇都宮市男女共同参画推進センター

1. 旅行会社からの説明

2. 研修先について学習会

3. 訪問先での質問内容の検討

4. 報告書作りの内容検討

第5回事前研修

日時 2015年10月3日(土)

場所 宇都宮市男女共同参画推進センター

1. 日程表最終確認

2. 経費の確認

3. 持参するお土産の配分

4. 現地での役割確認

5. 事後研修の打合せ

6. 会食

第1回事前研修

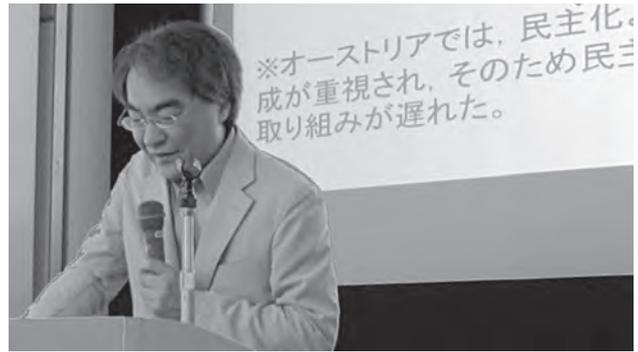
日時：2015年6月7日（日）

場所：とちぎ男女共同参画センター

講師：近藤孝弘氏

（早稲田大学教育・総合科学学術院教授）

演題：「ドイツは民主主義の能力をどう育てているか」



1. 戦後ドイツで政治教育に力が入られてきた経緯 ドイツの政治教育とは何か

戦後ドイツの民主主義を守るためであった。そのために、学校教育と学校外教育がある。学校教育では倫理・宗教科、歴史科、政治・社会科、等があり、その政治科の中に政治教育がある。学校外教育では、政治教育専門機関として、政治教育センターが置かれている。政治教育センターは、ドイツ連邦に1つと、その他16の州にそれぞれセンターがある。政治教育センターでは、市民が民主主義活動できるように、研修会を開いている。

政治教育としての歴史教育

例えば、バイエルン州の高校の学習指導要領

- ①歴史認識。歴史を知ることさせる。
- ②歴史意識。過去を考えさせる。
- ③政治教育。民主主義を守ることを教える。

政治教育の開始

なぜ政治教育が始まったのか。
1949年西ドイツができた。それを守るため、1952年に連邦政治教育センターができた。東の共産主義と、国内のナチズムに対抗するためであった。

2. 政治教育の目標と特徴

1969—70年代のドイツにおける政治教育論の政治的構成

保守派—既存の社会秩序の維持を目指す
革新派—既存の社会秩序をより公正なものに改めることを目指す
1976年この二派がドイツの政治教育はどうあるべきか会議を開いて議論した。

ボイテルスバッハ・コンセンサス会議

自分で考えて自分で判断できるように教育する

ために

- ①教員は、期待される見解をもって生徒を圧倒し、自らの判断を持つことを妨げてはならない。
- ②学問と政治の世界において議論があることは、授業でも議論があることとして扱う。
- ③生徒が自らの関心・利害に基づいて効果的に政治に参加できるよう、必要な能力の獲得を促すのが政治教育である。

政治的判断能力とは

- 2003年、政治教育学会において話し合われた。
- ①自分にとって、政治的意思決定が持つ意味を理解する能力
 - ②個々の政治的決定の意図しない結果を想像する能力
 - ③国内的視野だけでなく、国際的視野からも、政治を考える能力
 - ④短期的視点だけでなく、中長期的視点からも、政治を考える能力
 - ⑤社会、経済、法、歴史的視点から、多面的に政治を考える能力

政治的行動能力とは

- 自分の意見をどこかに決めなければならないので、下記の能力が必要になる。
- ①自分の意見がたとえ少数派であっても、効果的に主張する能力
 - ②異なる意見とのあいだで、妥協する能力
 - ③自分の消費行動を、反省的に振り替える能力
 - ④他者の立場に立って考える能力
 - ⑤文化的・社会的多様性を踏まえて、差異に関して寛容かつ批判的に考える能力

3. オーストリアにおける若者の政治教育

オーストリアの政治教育の3本の柱

①現代史の教育

繰り返される“歴史問題”2000年前はローマ帝国。

人口が少ない（800万人）、中立国を行う。

②ヨーロッパ教育

1995年にEU加盟

③有権者教育

1973年に政治教育センターができた。

政権を担ってきた社会民主党の青年部の主張により、選挙年齢が引き下げられてきた。

1992年、高校3年に政治教育が入った。

2007年、中学3年に政治教育が入った。

しかし、指導する先生がいなかったので、国が教育省・大学・教員等を集め教育プログラムを作り、生徒と先生が一緒になって学ぶという“政治にかかわる遊び”を通して教えていった。

選挙年齢の引き下げ

1949年 21歳から20歳

1968年 20歳から19歳

1992年 19歳から18歳

2007年 18歳から16歳

18歳に引き下げの際には、ドイツから学んだ。

ドイツは、1970年に21歳から18歳に引き下げている。

16歳に引き下げて心配はあったが、結果はそれほど心配する事は無かった。

①政治に興味か持てないかと心配した。

国民全体の得票率75%、16~17歳の得票率63%。

②若者の票が右や左に行くのではと心配した。

国民の多くの票が中道へ。若者の票は均等に入る。

4. 政治教育の具体的事例

政治科教科書から情報を取り込む。

書かれている内容を理解し、表現できる事を要求される。

政府が作っている教材は、賛成意見も反対意見も載せてある。

Wahl(ヴァール)-O-Mat (選挙用ソフト)

2002年にドイツ政府が作り、38の質問を答えていくと、あなたに一番合っている政党は…ですと、回答が出てくる。

日本では、毎日新聞、朝日新聞、ソフトバンクが、同様ものを行っている。

学校教育は政治に関する知識を与え、家庭では政党に関する知識を与える。

5. 政治的中立性について

政治的中立性は、国民一人ひとりの良心の自由を守るために政府に課されるものである。

目標は、中立的であること。

政治的中立性には「消極的な解釈」と「開放的な解釈」の2つが存在する。

消極的な解釈は、政府は見解の分かれる問題に介入してはならない。

*しかしこれは、政治教育にはならない。

開放的な解釈は、政府は見解の分かれる問題については双方を等しく扱わなければならない。

*自分と違う考え方をお互いに学び合う。

6. おわりに ドイツと日本の違い

民主主義理解の違い

国民は間違いを犯さないか？

(ワイマール共和国の教訓の有無)

教育における知識の重要性についての理解の違い

知識を持たない者は関心を持つことができない。

重要なのは、知識の質



第2回事前研修

日 時：2015年7月10日(金)

場 所：那須塩原市立塩原小中学校

応 対：学校長と小・中学校教頭（2名）



私たちはノルウェー・デンマーク研修時に訪れた小中一貫校が、栃木県那須塩原市で26年度からスタートした事実を知り、早速現地を訪れ実態を研修した。

四方を山々に囲まれた広々とした新校舎の玄関には小学校、中学校の2名の女性教頭先生が私たちを迎えて下さった。温かい木造建築の大広間で校長先生から那須塩原市の小中一貫教育についてご説明頂いた。

小中一貫教育の指針

小中学校の教職員が子どもたちの中学校卒業時の姿をイメージして、自分がどの発達の段階を受けもち教育しているのかを常に意識して指導に当たります。

9年間に関わる全教職員が責任をもって教育活動に取り組み、将来の夢や希望を自ら実現していくことができるように、積極的に支援していきます。

- * 小中一貫教育を通して目指す「人づくり教育」の実現（学力・体力の向上、社会力の向上、豊かな心の育成）
- * 9年間を3グループに分け、ゆるやかな段差で小中のギャップを最小限にすることを考えた
第一期 小1～4
第二期 小5～6中1
第三期 中2～3
- * 発達の特徴
第一期 具体物を通して考える時期
第二期 理論的思考に興味をもつ時期
第三期 論理的思考の定着時期
- * 指導の重点
第一期 基本の習熟を図る繰り返し補充指導
第二期 論理的・抽象的に考える指導に徐々に移行
第三期 基礎・基本を応用して論理的に考える指導

* 指導体制の確立

* 各中学校区の主な取り組み

* 市教育委員会としての主な関連事業

- ・学級づくり・いじめ不登校対策
- ・早期教育相談、支援体制の構築、通常学級における特別支援教育の推進、那須塩原っ子わくわくふるさとラーニング・調べる学習の推進・読書活動の推進・家庭との連携による“なすしおばらっ子”の家庭学習の推進。

社会環境の大きな変化と様々な教育課題に対応する

少子化・情報化・国際化など、社会環境がきわめて短期間に大きな変化をする時代にあって、教育も大きな変革を求められています。学力や不登校、いじめなど、多くの課題が指摘され、様々な対応がなされてきています。子どもたちの健やかな成長のためには、幼児期から小中学校の9か年を見通し、一貫した教育を推進して、学校・家庭・地域社会が一体となって子どもたちを育成することが重要になっている。



子どもたちの心身の発達の変化に対応する

食生活の変化や情報化など、社会環境の変化の中で、子どもたちの身体の早熟化、思春期の早期化が進む一方、体験的な学びの機会の減少に伴って、幅広いものの見方や考え方が備わっていない子どもたちも増えてきた。従来の6・3制の枠組みだけでは対応できない子どもたちの状況が出て

きた（10歳の壁・中1ギャップなどの問題）。子どもたちの成長にとって最も大切なこの時期を、小・中で分断することなくつなぎ、丁寧に関わっていくことが必要不可欠になってきている。

家庭や地域との連携・協力を一層推進する

学校の中だけが、子どもたちの学びの場ではない。地域そのものが格好の学習材であり、学習資源でもある。地域における伝統や文化の体験学習・社会貢献活動などを通じて、地域とかがわり、地域の中で育てられてこそ、学校で学んだ知識や技能も具体的に生かすことができる。人との触れあいは心を豊かにする。子どもたちの健やかな学びには、学校・家庭・地域が協働して取り組み、義務教育9年間終了時の子どもの成長に地域全員が責任をもつという意識改革が求められている。

期待される教育効果

- 1) ・小中教職員の複数の目による子ども理解と、より個に応じた指導・支援の充実
・各種調査・検査結果の小中共有による学力・体力向上対策と指導方法の工夫改善
- 2) ・児童生徒の学ぶ意欲の向上
・小中教員相互の指導力、授業力の向上
- 3) ・豊かな心や社会力の更なる育成
・児童生徒のコミュニケーション能力や自己有用感の向上
- 4) ・自校区の特色・地域の教育力を生かした教育の創造
・感謝の心、郷土愛、那須塩原市民としての誇りと自覚の高まり、社会参画意識の高揚
- 5) ・小1プロブレム
・10歳の壁
・中1ギャップの緩和
・不登校やいじめ、問題行動等の児童生徒指導上の諸問題の減少



* 1階は管理室と特別教室、2階1～4年生と特別支援、3階は5～7年、8～9年、理科室などで、その他は音楽室、英語室、多目的ホール、交流室があり、各階には温泉が出るので冬は非常に使いやすい。

* 幼稚園・保育園・小中の連携事業での交流会や合同で行事を実施したり、三大多行事として幼小中学校祭、奉仕活動、文化祭や地域性を生かした特徴的な学校行事（スキー教室・スノーシュー体験による自然体験活動とハイキングキャニオング塩原PR活動等）。

* ジュニア観光マイスター講座に伴う外部人材活用

* 特色ある教育活動の実践

地域学習（大好き塩原）と英語教育（We can do it）地域を知り、英語で情報を発信できる児童生徒の育成をめざす。物怖じせず、自信と誇りを持って表現する。

* 最大の課題は減少し続ける児童生徒数である。

特徴的な教育課程

- ・全学年ノーチャイム。
- ・小学校高学年は、50分授業
- ・主要教科を中心に教科担任制で実施
- ・小中教師間の相互乗り入れ授業



校長先生とお二人の教頭先生からのお話を伺って強く感じた事は塩原の自然・歴史・文化について、地域の様々機関との連携を強化しながら地域人材を活用して地域をととても大切にしている事である。

また地域に支えられているという言葉がとても印象的だった。

第3回事前研修

日 時：2015年8月20日（木）
場 所：独立行政法人 国立女性教育会館
講 師：横浜市長 林 文子 氏
演 題：超成熟社会の鍵は“女”



国立女性教育会館で開催される、平成27年男女共同参画推進フォーラム“一人ひとりの活躍が社会を創る”に参加し、まず会館提供の特別講演をきいた。

講師は、自分の生い立ちや仕事での苦労話など当時の世相話をした。

小5年生の時、父親が家を出たため、母は夜勤までして私を育てた。また自分もアルバイトを始めた。S40年高卒で東洋レーヨンに就職した。この時女子の大卒は3割の時代だった。しかも仕事の内容は、お茶くみやたばこ買い。また、会社の掃除のため、男性よりも早く出勤し遅く帰宅した。

上司からは「女性は5年で辞めています」と告げられた。職場の女性職員の年長者は29歳。また婚約した女性の机を窓際に置き、強制的に辞めさせていた。世間では、女性は22~23歳で結婚するのが当たり前だった。

18歳で職場の人と駆け落ちをしたので、母に勘当された。

婚約を機に、松下電器へ転職するも、半年で辞め、本田技研に就職。見習いで入り、洗車などの仕事をするが、知識のない女の人が店に居られたら迷惑だと営業に出された。営業では毎日々家を渡り歩いた。なかなか車が売れずにいたが、ある家で困っていたことへの手伝いをし、やっとお客様に受け入れてもらった。営業は出会った人に最高のおもてなしをすることだ。支えてくれるのはお客様であり、女性だ。女性のすばらしさは包容力や共感だ。男性は闘うのが得意だが、私は人と争うのが嫌い。

現在横浜市では、毎年500億円足りない。議会で争ったら進まない。

また、待機児童を3年で0にしたが、そこには職員の苦労と努力があった。1552人の待機児童が出た。みんなが諦めていた。それは「なぜ待機児童が出てしまうのか」に、向き合っていなかった。親か

ら話を聞いていなかった。役所が向き合わないのはおかしいと思った。

しかし、翌年待機児童が4000人増えた。そこでまた頑張った。土木課は街を歩き、空いている土地を見つけたり、マンションが建つ所はないかを見て回った。また“保育コンシェルジュ”をつくり、電話をかけまくり親と話した。保育園を造っていった。

役所には序列があり、係長は後ろに座り、発言ができなかった。それではいけないと思った。市民はお客様だから「ありがとうございます。気を付けてお帰り下さい」と言って下さいと頼んだ。これは青天の霹靂だったようだ。実演して見せ、言ってもらうまでに6年かかった。今は全員が「いらっやいませ」と言うようになった。市民から「よくやっている」と言われるようにしたい。男女がリスpektし合う風土がなければ良くなる。男性は照れくさくて言えない。阿部首相は、男女共同参画を言って下さるので嬉しい。褒める風土が日本にはない。米国人は心が広く褒める。

何度か会社の社長にスカウトされ、会社を渡った。

皆さんへの注文は、もう少し基礎自治体に目を向けて欲しい。女性はきめ細やかさを持っているのだから。また、男性の働き方を変えなければいけない。ワークライフバランスを考えなければいけない。

また、もう1つ大事なことは、子どものころから民主主義を教えるべきだ。



男女共同参画スタディツアー学んだ先進国の女性と男性の生き方を語り合う。

タイトル：男女共同参画スタディツアーで学んだ先進国の女性と男性の生き方を話し合う

呼びかけ文：私たちの会は“女性の地位向上と男女平等参画社会の実現”を目指して活動しています。1980年のコペンハーゲンでの世界女性会議に参加した先輩諸姉が中心となりこの会を設立し、今年で35年の歴史を重ねています。しかし、掲げている目標には遠い道のりを感じています。数年前に国連の女子差別撤廃委員会から「管理職につく女性の割合が遅い」と、厳しい指摘を受けましたが、いまだに解決されていません。ですから目標達成のために、私たちのできる活動をしていこうと、女性が活躍している諸国を訪ね、目標達成のためのヒントを学び続けています。

4年前にはノルウェー、2年前にはデンマーク、そして今年10月にはドイツの女性たちの生き方を学ぶ予定です。これらの海外研修を体験した仲間は、目標達成のために政治参加に意欲を高めています。全国の皆様からも良い知恵を頂きたいと考えています。

ワークショップ

1. とちぎつばさの会の歩みと活動を紹介し、海外研修を自主的に立ち上げた経緯を報告。
2. ノルウェー研修をパワーポイントで紹介。
3. ノルウェーとデンマークでの研修の成果と課題を報告し、ドイツ研修をなぜ予定するかを話す。
4. 質疑応答（会員が力を合わせ回答する）

問：どうしたら日本がよくなるのか。日本が変わらなければと痛感した。特に女性の投票率がひどい。

答：首長に女性がならなければと思った。

問：研修を企画するにあたり、苦勞する点はどういうところか。

答：研修先を選定し、面会人とアポイントを取るのに苦勞した。あらゆる人脈を活用し、確約に繋げた。また地元で元ノルウェー大使がお住まいなので、ご尽力頂いた。

問：これは素晴らしい。モデルケースになると思う。会費はどうしているか？

答：どこからも援助はない。全額参加者の参加費で賄っている。

問：日本では女性が管理職になるのをためらっている。家族の夕食を作ってから出かける現状がある。会場の男性に聞きたい。男性の立場で、そんな妻に協力できるか。

男性答：うちは両親共働き。授業参観に父親が来た。抵抗はない。

問：帰国後、何か実践したのか。

答：あちこちに出向き、研修成果を報告している。また参加した仲間が、政策決定の場へ意欲をもって参加し、県議として活躍している。

問：話を聞きたい人から連絡できるような、ホームページはあるのか。

答：これからの検討課題にしたい。

問：妻が働き、夫が主夫をするという人もいる。

答：それも働き方の1つだが、今では3人で1人の高齢者を支えている。更にこれからは2人で1人を支える世が来る。今までのような夫婦のどちらかが働けばよいというシステムから、共働きのシステムへと期待されている。政府は“女性が輝く社会”を提唱しているが、真の男女平等の働き方が求められる。女性が生き生きと輝ける世の中にしていかなければならないと思う。

| | | | |
|----|------|------------------------------------|-------------------------|
| 3階 | 208 | 非正規で働く35歳以上のシングル女性の現状と支援の方向性を考える | 参画推進協 |
| | 大会議室 | ワークショップ 女性のかで変革を～男女共同参画と災害リスク削減～ | 男女共同参画ク(JWDRRU)財団(JAWE) |
| | 301 | 学校教育における男女共同参画—学校教育で育てたい「道徳」って？— | 男女平等をネットワーク |
| | 303 | ～被災と克災～と男女共同参画 | とよはし女 |
| | 304 | 男女共同参画スタディツアー学んだ先進国の女性と男性の生き方を語り合う | とちぎつ |
| | 306 | 男女共同参画社会の啓発活動を分析する | いさんか |

現地研修の記録

ベルリン日独センター

応 対 者：河内彰子氏（文化部長）
桐月英実氏（副事務総長アシスタント）
設立経過：1985年設立
1990年に現在の地に移転
職 員：25名（女性の割合が高い）
事務総長は女性



最初に日独センター設立の由来をうかがった。それは、1985年に西ベルリンで、当時のコール首相と中曽根首相が、大使館を改修し日独センターを開所。その後1990年に、ここに移転してきたとの事。今年30周年を迎え、様々な活動を行っている。主な活動として、日本とドイツの交流と、政治や経済をテーマにした会議。青少年の交流。日本語の普及。文化（展覧会や演奏会）の啓発など。その他には、多目的ホールがあり、また同時通訳もできる。更に先程の活動の内容を詳細に紹介すると、

- ・芸術家の交流、インターナショナルのコンサート
- ・SNSネットの良し悪しをテーマに、青年が交流
- ・安全管理について ・環境エネルギー問題
- ・医学について ・電気自動車 ・日本語講座
- ・女性の権利の問題 ・会議通訳者の養成など。

また青少年の交流プログラムを行っているが、その内容は、公募で集まった8人ずつの日本とドイツの青年（職業は様々）がサマースクールに参加し、交流をするというもの。

問：女性の権利について

答：ドイツはまだ進んでいない。保守的なバイエルンなどは、女性の権利が進んでいない。女性の賃金が男性より30%低いので闘っている。

問：ジェンダーギャップは、ドイツ12位ですが？

答：まだまだです。

問：保育所や祖父母の支援は？

答：ベルリン在住は核家族。しかし子どもの病気介護休暇があるし、友人間の相互補助がある。保育所も激戦区だが預ける所はある。

問：国際化に強くなる人を育てるには？

答：日本はグループ意識が強くて、周りを意識して積極的にならない。ドイツは積極的。しゃべらない人は、意見がないと思われる。

問：日本人の下で働くドイツ人は、意見が言えない

のでは？

答：その企業は伸びない。我慢して言わないのは欠点です。

問：ドイツ人に人気のある日本文化は？

答：建築は桂離宮。幻の建築と考えている。

歌舞伎や能。興味を持っている人がいる。漫画とアニメ。若者に人気があり、日本語で読みたいと、日本語を勉強している。

問：職員の構成は？

答：フルとパートを合わせ25名。5部署あり、5人の部長の内4人が女性。部長は公募だが、女性が応募してくる。男性とか女性とかの性別で考えるのではなく、能力や自信で判断する。日本人は女性が女性の足を引っ張るが、周りで支えるしかない。

数年前から、ボーイズデーやガールズデーが始まり、14歳位の子が職場見学に来る。

問：医療や農業について

答：獣医師に女性が多い。婦人科も女性が多い。

応対者のお2人から「皆さんはどういう事をやっているのですか」と聞かれたので、女性の地位向上の話をする、様々なアドバイスを頂いた。

- ・県が予算を出さないのはバッシングです。ネットワークが必要です。他県とも交流すると良い。
- ・女性議員を増やすためにクオータ制を入れねばダメです。「しょうがない」とあきらめはダメです。
- ・会議で質問をする人が撃たれている時は、周りで支えなさい。
- ・日本人は、反論されるのに慣れていないので、人格を攻撃されていると勘違いする。言い方に傷つく。感情的になってしまう。感情でなく、意見についてのディスカッションに慣れるようにしなければならない。

在ドイツ日本国大使館

対応者：臨時代理大使

次席公使 宮下氏



森のようなティアガルテンは都市の中にある大きな公園。その見事に色付いた木々の葉を愛でながら歩くうちに、閑静な各国の大使館が並ぶ広島通りへと行き着く。その一角に厳重な門構えの大使館があった。

在ドイツ日本国大使館は、ドイツに在する日本大使館で、外務省の特別の機関である。

【大使館の仕事】

ドイツと日本の政府間の問題について、G7という価値を共有する国同士なので、一緒に協力して取り組む=連絡調整（外交）

【総領事館の仕事】

邦人保護=問題生じた場合に、相談に乗ったり援助をする。

【歴史】

1990年10月3日、東西ドイツ統一によりベルリンを首都と定めたので、日本大使館も1991年にボンにあった大使館をベルリンの大使館に統合した。

【市民の暮らし方】

ドイツ人は家族・休暇を大切に、人生を楽しむ。

労働時間は、8時半～午後4時頃まで。

上層部は残業し若い人たちは定時で帰宅、その為子育てのしやすい環境である。

バスや電車の中で、ベビーカーをひいたお母さんを誰かが助ける。弱者に対する強い思いやり（キリストに教えられた人種）

以前の東ドイツでは、男女の差なく仕事をしていたので、保育施設も充実していた。

西ドイツは、「妻は家庭で育児にいそしみ、3歳までは家で母親と過ごすのが良し」とされてきた。このような歴史的背景から東ドイツの方が、待機児童の問題は小さい。

【女性の地位向上】

2015年3月、強制力を持った女性クオータ制（来年から施行）の法律が成立した。

大企業（100人以上）108企業の、監査役会の女性委員が30%を占めなければならない。しかし、適当な女性がない場合は、当該ポストは空席とする。

500人以上の企業に於いては、女性の割合を高める目標を掲げる必要があり、30%を念頭に管理職を目指す。

国家公務員に於いては、女性が30%を超えている。

【難民問題】

毎日、数千人の難民をシリアから受け入れている。アサド大統領と、反政府、ISの3者が互いの勢力範囲を広げようとした。敵の敵は敵。喧嘩をやめない。

今年中に80万人がドイツに入る見込み。

恵まれている人がドイツに向かって逃れてくる。いかに早くドイツの国に適應するか。ドイツ語の勉強をさせ、ドイツ社会に溶け込めるようにしている。

【まとめ】

環境や福祉に対しての先進的な国、まじめで勤勉な人々の国。ドイツのイメージを持って研修に参加してみた。学びを生かすために多くの分野で頑張っているのだという事がうかがい知れた。

宮下氏に、ドイツに生活して変わった事はとお訊ねした答えは「家族と過ごす時間が多くなったこと」

日本でもフレックスタイム制や、クオータ制の導入などが取り入れられ家族が毎日、一緒に過ごす時間が一日も早く訪れる事を願いたい



女性起業家センター

Weiber Wirtschaft cG

対応者：Dr. Katja von der Bey カチャ フォン ダイア バイ

設立経過：1980年代

会員数：1800人

(仕事をする人100人、協力者1700人)

入会金：130ユーロ



古い女性という意味の「ヴァイバー」と名付けたのは「女性でも出来るよ」という意味で、また「ヴィルトシャフト」は経済の意味である。

女性としてどのように職場を作るかを考えた。女性たちの連帯の気持ちで協同組合を作った。

全ての起業の40%は、女性が設立した。

女性は家族もあるので、働きながら家事をする責任がある。まだ家事の役割は女性が担っている。

80年代に協同組合を設立しようと考え、まずこの不動産を買うのに努力した。ここを修復したのは女性建築家だった。修復には91~96年の5年掛かった。20年前に太陽エネルギーを初めて付けた。

部屋は、会費を払った会員だけが使用できる。家賃は、始めの半年間は家賃の50%、その後は75%、10年経つと100%になる。家賃が高くなると、もっと安いところを探して外に出たり、また成功すると、もっと大きな部屋でやろうと出ていく。

成功する人、ダメになる人がいて、最初の5年間で70%の女性起業家が生き残る。

部屋を利用する人は、若い人から高齢の人まで幅広いが、多くは30~40歳。

アパートが一棟（13部屋）あり、家賃収入は運営費に入れている。その他レストランが2つある。

保育園もあり、母親が仕事中は預かり、仕事が終われば一緒に帰宅する。生後6ヵ月から預けることが出来、朝7時から夜7時まで運営している。



起業の主な仕事は、彫刻家、機械を作る会社、ファッションの会社、美容院など。

このような施設はあまりないので、他の州から見学にくる。政治家も見学に来ている。

10年前に相談するための組織を作り、起業をするための相談にのっている。

女性の賃金は男性より低い。きちんと貰えるように頑張っている。



問：どんな理由で、起業するのですか。

答：様々なきっかけがあるが、主なものは、

- ①自分のアイデアの実現。
- ②失業し、仕事が見つからないので設立。
- ③労働条件への不満。
- ④キャリアアップのために、自分の会社をつくる。
- ⑤人間関係を改善。
- ⑥仕事と家庭の両立。

年間1700人の女性が、ここに相談に来る。



ベルリン政治教育センター

応 対 者：ギャルノット ボイルフラン 氏
(政治教育と文化教育を担当)

設立経過：戦後政府が民主主義を教えるため設立

職 員：35名

その他50名 (専門家や先生)



政治教育センターの活動について、そして特に青年と女性について話をうかがった。

ドイツの特徴として、40年間は違う政治教育を行ってきた。再統一してから25年経ったが、分断していた東・西ドイツ時代に全く違う教育を受けた親の影響もあり、戦後生まれの人にも、考え方に違いがある。そのようなことがあるので戦後すぐは、民主主義の制度や価値観を教えたのが初めだった。

一番大切なことは“民主主義”という事だ。これを広めないと、国を守ることが出来ない。だから、学校での講演会、ワークショップ、本などで啓発を行っている。

ここは政府が設立した機関。限定される特別な考えではなく、フラットな考え方を重んじている。

委員会のメンバーは、全国から集められる。

また歴史を説明する際にも、一方の偏った考えだけを出すのではなく、多くの代表から中立の立場で意見を出すようにしている。

そのことを説明するために例を出す。

人々の中に、難民の人数が多いという気持ちを持っている人がいる。それに対し政治的な意見で対処するのではなく、そう考えている人々の気持ちを、まず聞くことだ。

こんな事例があった。

「ファシストの若者を招待した。あなたの意見は良くないと言うと、反発されるので、戦争の前について、若者の意見を聞いた。最初からあなたは正しくないと言ってしまうのは良くない事だ。まず相手の意見を聞いて、それからゆっくり提案した」
まとめてみると次のようになる。

- 1 番目の原則は、相手の話を聞く。
- 2 番目の原則は、いろいろな考えを知らせる。その際は簡単に判断しない。社会の弱者について考える。
- 3 番目の原則は、若者と会話形式で意見交換する。

現代の若者は、インターネットをよく使ってニュースを見ていたり、自分のブログを作って発表したりしている。そんな若者に政治教育センターから委託金を出し、若者向けに簡単な映像「これは何ですか」というものを作ってもらう。色々なテーマ毎に約3分間の簡単なものだ。若者感覚で作るから、若者によく見てもらえる。

例えば、難民としてドイツに来るイスラム人はイスラム教だが、若者にそのイスラム教を理解してもらうために、説明する映像を作ってもらった。

今の若者の中には、政治に興味がない人がいるので、どのようにしたら参加してもらえるかを話し合ったり、若者向けのワークショップのやり方を考えたりしている。



ヴァール オー マット

また政府は、Wahl-O-Matという選挙用ソフトをつくる。これは全ての政党から、環境や難民問題など38項目について意見を聞き、政党の意見としてホームページに載せている。

自分の考えが定まらない時は、政党の考えが書いてある選挙用ソフトを見ていくと、自分の考えが良く分かる仕組みになっている。

このソフトを作る時は、中立を保つため、外部の専門家などから意見を聞いている。

民主主義を教えている政治教育は、国家の税金で行っている。年間4万ユーロもの予算である。

ベルリン市議会

エヴリン ソマ
応対者：副議長MS. Evrin Sommer, Die Linke
(左派党)

市議会：議員数 149名 (5年任期)
女性議員 30%



市議会の建物は崩壊されたベルリンの壁のすぐ東側に位置している。もともとはプロイセン議事堂で1899年に建築されたドイツの歴史的建造物の一つである。第二次世界大戦中の砲弾の跡が痛々しく残る外壁である。再統一後の1993年よりベルリン市議会として使われているとのことだ。中に入り赤い絨毯の階段を登った先の廊下は170名の名誉市民のギャラリーとなっており、何枚もの絵画が展示してある。その先の部屋にはベルリンの壁崩壊直後の様子を描いた3枚の大きな絵が展示してあり、市民の喜ぶ様子や、何が起きているのかわからない様子の警備隊、西ベルリンのモンパ市長の嬉しそうな表情がそれぞれの絵に描かれていた。その部屋の隣には科学者も議員も歩きながらいろいろなことを考えるという広いエントランスがあり、そこでジャーナリストが議員にインタビューをするそうだ。そこには議場につながる3つの扉があり、それは賛成、反対、棄権を意味し、そこからの出入りにより採択されるとのことだ。それぞれの数は目視で判断されるという。

そのドアを入ると議場があり、壁は一部ベルリンの壁をモチーフに残し、壁が壁になっているとガイドさんが説明していた。議長席の後ろには3つの旗があり、左側がドイツの国旗、右側がEUの旗、そして真ん中は熊をモチーフにしたベルリン市旗があった。現在のベルリン市旗は1945年から使用され強さの象徴である冠と爪が外されている。議長団の席の両側には4つずつゼナートと呼ばれる州政府を構成する8つの席がある。構成するメンバーは市長を含め8人で議会議員である必要はないとのことだ。このゼナートの名称を使えるのはドイツ16州の中でベルリン、ハンブルク、ブレーメンだけで、議会は二週間おきの木曜日に開催される。

ベルリン市議会は、149議席で構成され、ベルリン市長は議会から選出されている。市議会議員の選

挙方法は、比例代表制で、政党を立候補単位とし、各政党が候補者の名前を並べた「立候補者名簿」を事前に提出し、政党の得票数に比例して当選者数を決定する。

現在の市長も選挙で議会から選出されたドイツ社会民主党のミヒュエル・ミュラー氏で赤の市庁舎で執務を行っている。

市長の所属するドイツ社会民主党と左派党は2001年のベルリン州選挙後市政を担っている。2011年の選挙ではドイツ民主党とドイツキリスト教民主同盟が連立を組み、若い人たちが構成されるドイツ海賊党が初めて議席を獲得した。

左派党は、女性に対する50%クオータ制を党の基本方針としている。選挙における名簿については男女交互とし、その際に奇数順位を女性と決めている。また、党の職員についても男女同数となるように採用している。

彼女の政治家としてのスタンスはラフな装い。バッチもつけないなど毅然とした姿勢であった。

トルコ出身の彼女は1999年からの議員の経験を活かし、次回の選挙には立候補せず、応援者がたくさんいる地域の区長になりたいと言っていた。

ベルリン市議会の副議長として活躍している彼女はとても輝いていた。そして、クオータ制や女性優位の比例代表制を導入している政党を指示するドイツの未来は明るく輝き続けると感じた。



ドイツ連邦議会

対応者：MS. Cornelia Möhring ^{コニューア ムーリング} 左派党
2009年より議員、議員団の責任者

連邦議会：議員630人、職員7,000人
女性大臣6名、男性大臣10名、

議事堂：東西ドイツ統一後、8年をかけ修復



旧政策局を平等局に変更し、家族・高齢者・女性・青少年省の男女平等政策局の委員会の委員長を務め、男女機会均等法の問題を6年前から考えている。党は違うがマヌエラ・シュヴェーギーヒ氏（家族・高齢者・女性・青少年省の現女性大臣）も男女均等法を推進。1957年から、基本法に男女平等はあるが、基本法に書いてあっても実際には守られない権利で、具体的には法律が必要である。

1977年の法改正で両性は互いに権利が平等になったため、妻は夫に相談しなくても自分で労働契約を結ぶことが出来るようになり、1994年から結婚した場合には、どちらか一方の姓を名乗れば良いことになった。

現在、家族・高齢者・女性・青少年省の中に、男女平等政策局のほか、中央局、家庭・福祉・市民参加活動局・高齢者局、子ども青少年局の5局があり、平等局の担当課では、女性問題は基本問題からワーク・ライフ・バランスまで幅広い分野を扱っている。

16州にはそれぞれ男女平等を担当する機関が置かれているが、州によって独自の取り組みが行われ、連邦より進んだ男女平等政策を行っているところもあるようだ。ちなみにベルリンでは、経済・技術・女性省内の女性・平等・政策局で男女平等を担当している。

省（役人）の中でも100人以上いる課では、機会均等法の係を決めねばならない。大企業の労働組合は、組合の中で係を決めている。会社の中には、責任者がいても係がない所がある。だから男女平等を進める為に平等省があれば良いと考えている。

連邦議会の中には、力強い女性組合組織がある。議会はこの組織と協力をしている。もしこの組織が無かったら、クオータ制は実現しなかったであろう。

2010年、ベルリンの3ボスといわれる連合議会・女性問題の責任者・女性連合の代表者が、この

クオータ制を発表した。これを旧西ドイツの政党の党規にいった。

問：離婚率は？

答：18歳以下の子を持つ親の20.8%がシングルマザー（含1割がシングルファザー）少子化で子ども数は減ったが、シングルマザーは増え続けている。その三分の一は経済に問題がある。

問：年金については？

答：67歳が定年で、35年間仕事をしなければ年金は貰えない。早めに貰いたい人は貰えるが、年金額は下がる。年金額800ユーロ/月以下の場合、社会局へ申請すれば支給されるが、恥と思ひ申請しない人が多い。男性の年金は、女性より60%多く、男女間の年金格差が大きな問題になっている。なぜなら、女性は仕事をする機会が少ないことと、子育て介護のため働く時間が限られてしまうから。

問：消費税は？

答：食料品、タクシー代、入場券7%。他は19%。

問：権利は？

答：墮胎の権利・労働の権利・子どもの施設の権利は東ドイツにあって西ドイツにはない。



〔傍聴席では子どもから大人まで、沢山の人が政治教育を受けていた〕

ベルリン・エネルギー・エージェンシー

Berliner Energieagentur GmbH

対 応 者： プナベーツ氏（局長）

設立経過：1992年

職 員：54人（男性が多い）



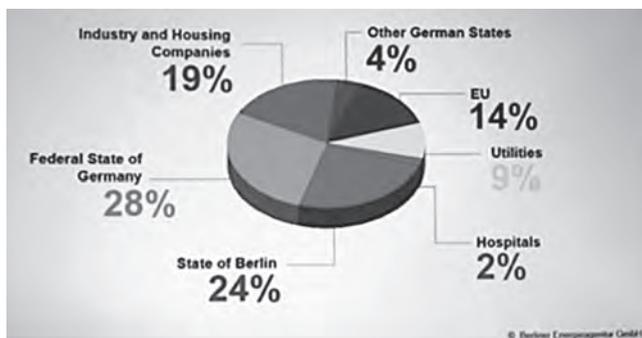
ここは有限会社で、4つのグループが株を持っている、官民連携組織（ベルリン連邦組織、ドイツ復興基金、ガス会社、電力会社）である。

まず気温とエネルギーについて説明があった。地球温暖化の問題がある。2014年は特に暑かった。エネルギーの値段が段々上がっている。ドイツは70%の資源を輸入している。天然ガスに至っては80%輸入。だからエネルギー効率を考える時、次の5つを考えねばならない。

- ①気温保護 ②安全政策 ③資源が減る
- ④コストが高くなる ⑤輸入に頼る

EUとして2030年までに、温室効果ガス削減目標を27%と決めた。そのためドイツは2010年に新しいエネルギー政策「再生可能エネルギーの利用」と「エネルギー効率をよくする」を発表した。2020年までに二酸化炭素を40%削減し、2050年までに80~90%削減したい。またエネルギー効率をよくするのに、建物や建築する際の新しい政策も決めた。

さらに翌年、エネルギー転換と呼ばれる政策を決めた。それは福島原発事故が起こったからである。



エネルギー効率を高くするためには、建物の暖房に気をつけねばならない。ベルリンは2020年までに、二酸化炭素40%削減を目標に掲げている。

大きな風車は田舎には作れるが、都会では難しい。だから、太陽光発電とバイオマス発電の2つに限ら

れる。これは2000年の「再生可能エネルギー優先法」によって進められている。太陽エネルギーは、可能性がたくさんある。エネルギーは必要な所で生産すれば、運ばなくても済む。

毎年、市内の建物2%の外壁を修復するとして、2020年目標で40億ユーロものお金が必要になる。州の建物だけとしても10億ユーロかかる。街の予算が限られているので、予算措置ができない。

エネルギーを高めるために、専門家による相談業務も行っている。会社のスタッフ教育も行っている。

2020年までのエネルギー政策について、市から委託を貰い、専門家が計画書を作った。委員会はベルリン12区のエネルギーの担当者12人と政府から4人で、計16人。

築100年の古い住宅について、どのように修復したらよいか提案した。特に古い家は、修復しなければならないからだ。また街灯も同様に担当している。

14~28歳の青年向けにエネルギーに関してのワークショップや講演会を開催している。また、2大学と協力し年2回程度エネルギー教育を行っている。

低所得者にも協力を仰ぎ、古い冷蔵庫を一部は国家負担で買い替え、古いソケットや電球は無償で交換している。

2002年より、現在太陽光発電は120基ある。

病院の中などにある小さな発電所として、お湯や暖房用の自家発電をすすめている。

できるだけ自然エネルギーを使いたいと考え、消防署や市役所でバイオマス発電を行っている。住宅、倉庫、市場などでも使っている。

このようにドイツはエネルギーに対する考え方が変わった。また京都議定書を守るためもあり、その意味で、日本はドイツに大きな役割を果たしている。

ポツダム大学

ローゼマリー ナウマン
応対者：Dr Rosemarie Naumann

(政治教育学者)

同席者：シュミット教授

ベアマン教授

学生2名

学部：政治教育学科、経済社会学科、法律学科等



はじめにシュミット教授から、大学の概要を紹介され、ベアマン教授からは、教育の歴史を聞いた。

昔、先生を養成する短期大学があった。しかし東ドイツ時代は病院として使い、ポツダム会談の時は兵舎として使われた。そして1991年にポツダム大学になる。現在は50%が女子学生だが、教授などには女性が少ない。



つぎにナウマン博士の講義を聞いた。

冒頭、投票年齢について、16歳か18歳か20歳、そのどれがいいのか、それが私のテーマだと言う。

選挙には、連邦と州の2つがある。

ブランデンブルク州では、2011年に16歳選挙権を決定し、最初の選挙は2014年に行われた。35,000人(全体の中の1.8%)の若者が初めて投票した。これは若者の40%で、性別では、男性39%、女性42%。他に16歳で選挙に参加できるのはブレーメン州があり、この2州のみだ。州によって選挙年齢が異なっている。若者に選挙に興味があるかどうか聞いたが、回答は半数だった。しかもあまり良い返事ではない。だから本当に16歳が良いのかどうか迷う。

ドイツは18歳から大人としての権利があるので、立候補できる。だから16歳は意味がないと反対する大人がいる。また州の選挙は5年に1回なので、16歳の次は21歳になる。16歳に下げる意味があまりないと言う。

2014年の選挙に参加した若者は、16歳が40%、18歳が30%、20歳が25%。大学生は郷里を離れており、選挙でわざわざ帰郷しないため、投票率が低いようだ。大人の投票率は、年齢が高くなるほど高く60%になる。また女性の方が投票率は高い。

若者の投票率が低いのは、これは民主主義に興味がないか、国家に興味がないか、だろう。だから学校で民主主義を教えなければと思う。

10年前の調査結果と比較すると、政府の政策に賛成者が多くなったので、投票しなくてもそのままよいという考えがあるかもしれない。それでも権利について、教えなければと思う。

2012年に16歳から18歳の若者の投票参加の準備のために、教育プログラムを作った。

プログラム①毎日の生活(学校や職場)の中で教える

ㄥ ②興味のある若者への支援

ㄥ ③インターネットの活用

ホームページを作るのに、若者に参加してもらう。

そこを知識と情報の発表の場にする。

ブランデンブルク州では、5年生から9年生までの5年間、義務として政治教育がある。

2014年に特別なプログラム「青年選挙」というゲームを作った。これは、選挙の知識や手続きの知識などを教えるものだ。小学校の高学年にオンラインゲームで学べるようにした。民主主義をゲームで分かってもらえるようにした。投票権は市民の権利だからだ。

また学校以外でも、クラブ活動や委員会組織などがあるので、ここでも学べるようにした。若者の言葉でパンフレットも作った。テレビでも宣伝した。

選挙に参加する準備として、とにかく幼少から決定に参加してもらっている。例えば、遊び場などを皆で決めていく場に参加してもらい、決定する過程を教えている。

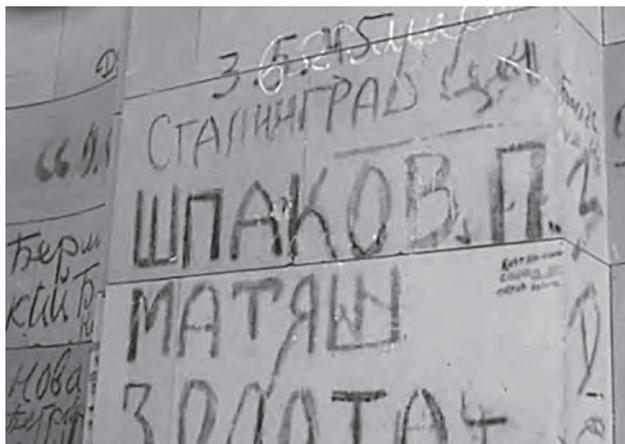
ドイツ連邦議会議事堂見学

1884～94年に建てられた帝国議会議事堂。1933年ナチス軍がブランデンブルグ門を通った4週間後に議事堂は炎上した。第2次世界大戦後は西ドイツ側にあったが、議事堂として使用されずにいた。1970年やっとドイツ連邦議会が開かれるまでになった。

東西ドイツ統一後1991年、ベルリンが再びドイツの首都になったので、8年をかけて大改築を行った。建築はイタリアルネッサンス様式。議事堂の真上の屋上に、ガラス張りの中央ドームがあり、無料で見学できる。



(これはガラス張りのドームの中)



(廊下には、ロシア兵の落書きがある)

ベルリン市役所見学



(赤レンガの外観から赤の市庁舎と呼ばれる)

1861～69年に建設された市庁舎。第2次大戦で50%破壊されたが、1951～56年に再建し東ベルリン市庁舎として使用。その後東西が統一されたので、ベルリン市庁舎として使用する。

ベルリン市は、16州の中の1州にもなっているので、都市州 (Stadtland) と呼ばれ、地方公共団体であるとともに、州と同格となっている。

市役所職員200名。副市長は男女2名。



(廊下に、ナチスに殺された議員他の名のプレート)

コンサート鑑賞

ベルリン日独協会の主催で行われたコンサートに招待を受け、楽しい一夜を過ごした。会場は、在ドイツ日本国大使館。



ドイツの歴史

ベルリンでは、古い建物はほとんど破壊され、わずかに残る古風な建物の周囲に、ガラス張りの近代的な建物が並ぶ。



ユダヤ人犠牲者記念館

ここは、ナチスドイツに虐殺されたユダヤ人に捧げられた記念碑で、地下には展示室がある。

ドイツは秋休みに入っていて、ドイツの高校生が連日訪れているとの事。



ブランデンブルク門

この門は1788年から91年にかけて、プロイセン国王の凱旋門として、アテネの神殿の門を手本に建てられた。



チェックポイントチャーリー

歴史を伝える証拠写真などが残され、過去を振り返ることの大切さを教えている。

第二次世界大戦の敗戦国であるドイツは、米・英・仏・ソの4カ国にそれぞれの地域を占領された。ソ連はベルリンの東側、残りの3カ国が西側を占領した。しかし4カ国の内ソ連のみが社会主義で、他3カ国は資本主義であったため対立。その結果本来

は一つの都市ベルリンが、分断され東ベルリン・西ベルリンと呼ばれるようになった。

その後、東西に分かれたベルリン同様、ドイツと言



ベルリンの壁、保護地区

う国自体も分裂してしまう。

つまり西ドイツ<ドイツ連邦共和国>、を資本主義の米・英・仏3カ国が占領し、東ドイツ<ドイツ民主共和国>を社会主義であるソ連が占領した。社会主義国となった東ドイツでは、西ドイツに比べて自由がなく、自由な西ドイツへと亡命する人が後を絶たなかった。東ドイツでは労働者が大幅に減り困ったので、何とか亡命者を止める手立てはないかと考え、東ドイツが1961年8月13日の午前0時から壁作りを開始するに至る。

<壁を隔てて余にも違う世界が2つ存在する>

1989年8月5日、10万人以上の東ドイツ市民が西ドイツへの出国申請をし、プラハ、ブダペスト、ワルシャワにある西ドイツ大使館や東ベルリンの西ドイツ常駐代表部に保護を求めた。

19日は、壁建設以来最大の東ドイツ市民の国外脱出が起こった日。1989年10月3日ドイツ各地で「ドイツ統一の日」を祝う式典が催された。この日、憲法第23条に基づき「ドイツ民主共和国のドイツ連邦共和国への加入」が発効し、東ドイツと言う国が消滅をした。そして11月9日の夜、この防壁はすぐには崩壊されなかったが、それでも突然に両側からの通行が可能になった。現在はブレノウ通りのベルリンの壁記念碑が、見学者にやりきれないほどの静寂と災難を伝えている。



街中にはベルリンが誇る建築群が続々と目の前に現れる。しかし、説明を聴きながら市内を歩くと、歴史の汚点をしつかり後世に伝えるドイツの姿勢を受け止めることが出来た。

ツェツィーリエンホーフ宮殿



(ポツダム会議の会場)

第一次大戦中に建設された、176室ある英国の大農家風の建物。ホーエンツォレルン家の皇太子妃ツェツィーリアの名がつけられたこの宮殿は、木々に囲まれて、庭がとても美しい。



1945年7月17日～8月2日、首脳たちが(米・英・ソ連)ドイツや日本の戦後処理を話し合ったポツダム会議の会場となった。

7月26日に発表された“ポツダム宣言”の内容は「皇室のもとでの立憲君主制を……」が、「国民は自由な思想に従って政府を樹立できる……」に書き換えられていた。これを知った日本は、天皇を守るため“国体の護持の保障”を求めた。日本が“天皇”という言葉が入ったことを確認できたのは8月14日、やっとポツダム宣言の受諾を表明した。

しかしその間に、8月6日広島原爆投下、8日ソビエト参戦、9日長崎原爆投下が決行された。



(ポツダム会談会場)

サンサーシ宮殿

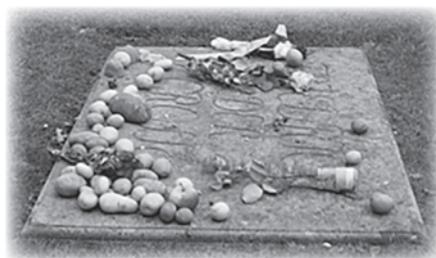
フリードリヒ大王が、夏の居城として1747年に建てたロココ様式の華麗な宮殿。大王自ら設計に加わり、35歳から74歳で亡くなるまでのほとんどをこの宮殿で暮らした。階段状のブドウ畑から宮殿を見上げた姿が美しい。部屋の内装は、部屋ごとにテーマがあり、彫刻や絵画が豪華絢爛に施されている。



中庭に回ると、88本のコリント式柱を持つ懐古様式の柱廊で豪華絢爛だ。ロココ様式の非常に生命力あふれる彫刻が屋根を支えている。



大王と愛犬の墓があるが、寒冷でやせた土地でも育つジャガイモの栽培を奨励した大王の墓には、いつもジャガイモがそなえられている。



参加者の成果記録

弱者にやさしい国ドイツ

相川 美名子

選挙権18歳投票が今度の参議院選からという年に、先に18歳になっているドイツベルリンへの旅となった。

市バスから降りるとき車椅子の男性と一緒に立った。さっと運転手が出てきてスロープを敷き、車椅子の人が降りると、ベビーカーの親子も入り、周りの人も待っている。ドアも大きくて入りやすく、地下鉄・路面電車にも盲導犬・車椅子・ベビーカーマークなどが大きく、さりげなく手を差し伸べるやさしさ・余裕がある。

ベルリン日独センターでは、育休明けで子育て中の女性職員に子どもの教育・保育所・発熱時男女ともに休める権利があること・ママ友との相互助け合いなどを聞いた。ドイツでは「周りの人に迷惑をかけない・自己責任・議論好き：多様な意見に自分で考える・自己主張」などの文化の違いがあった。

ヒロシマシュトラゼ（大使館通り）にある日本国大使館では、大使よりドイツ人は個人主義で議論好き、家庭・家族・休暇を大切に、ベビーカーの親子を誰かが助けてくれる「弱者に対する思いやり」があり、100万人にもなりえる難民にも「いかにドイツの社会に溶け込ませるか？」と考える。男女平等は、法律で女性のクォータ制が決まっているとのこと。

女性起業支援センターでは、女性の連帯で女性のための援助や若い女性に教育し、事務所を安い金額で貸します。幼稚園や保育園もあり、便利で、相談事業も行っている起業しやすい環境に驚いた。

ベルリン政治教育センターでは、中立的立場で民主主義や価値観・考える原則について講義・ワークショップ・会話・インターネット・様々なマスメディアで伝える。若い人のDiversity（多様性）や政治的な考え、いろいろな意見があることを認めるセンター。日本でも、きちんと教えられる場がほしいと思う。

ベルリン市議会の荘厳な外観のなかにシンプルでオープンな議場と16年キャリアの女性市議会議員との懇談会、120年前の帝国議会を改装したドイツ



連邦議会議事堂もシンプルでオープンな議場で天井までガラス張り、展望台があり、市民・国民に開かれ、太陽の日差しを浴びた明るく効率的な政治を感じた。

エネルギーエージェンシーでは、エネルギー効率と再生可能エネルギー・エネルギーの貯金（電気・水など）教育の話がすばらしかった。私も、太陽光発電や電気自動車、ゴミ削減などエコ生活を目指しているので、これからも頑張っていきたい。

ポツダム大学教授の若者の選挙権についての講話では、多くの若者が投票していないこと、民主主義は毎日の生活・学校・職場で可能性がある。国民・市民の権利は大切に、選挙に参加してほしいとのこと。私も、中学生や高校生にしっかり伝えていきたい。

難民問題もパリのテロ事件も、国際問題として対岸の火事ではなく、自分たち皆の問題として考えていかなければならないと強く思った。

自分自身も心に余裕を持って生き、様々な弱者・困っている人にやさしい社会を創っていきたい。



男女共同参画スタディーツアに参加して

荒川 栄子

私は2012年に次世代人材作りの研修終了後、とちぎつばさの会に入会以来、初めての海外研修に参加することが出来ました。これまで学んできたことの集大成の思いもありましたが、なによりも海外経験豊富な会員の方達と共に行動できるという安心感が、今回のツアー参加を決定する決め手となったと思います。

ベルリンでは通訳のドイツ人シュミットさんが日本語で温かく私達を出迎えて下さいました。ホテルの窓から見える風景はとても美しく、日本の紅葉の季節を彷彿とさせてくれました。彼女の案内で、ホテルからは徒歩、バス、電車と乗り継ぎながら途中目にする街並は、重厚な建造物や広大な並木道など、とても素晴らしくベルリンの歴史の重みを感じました。

訪問先ベルリン日独センターについて

センター内は、ドイツ人と結婚され、子供を保育園に預けながら活躍している日本女性の方から説明していただきました。ベルリン日独センターは会議系事業、文化事業、日本語講座、日独人的プログラム、日本に関する情報提供、出版などの事業をつうじて日独交流及び国際交流を促進し、強化することを目指しています。

また、当センターには図書館が設置されバリアフリーの閲覧室には学習用のディスクと読書コーナー、又お子様用の絵本コーナー、日本文学、児童図書、などありました。

在ドイツ日本国大使館での講話から

第二次世界大戦後ドイツの首都はボンでしたが、東西ドイツが統一した1990年後は首都をボンからベルリンに移すという法的決定がなされ、今ではベルリンがドイツ連邦共和国の首都となっています。ベルリンは、第二次世界大戦後約60年間は東ドイツという別の国の中にあつた陸の孤島でした。

かつては、ベルリンの東西を分割する壁はなかったが、徐々に東から西に行く人が多くなり、それを阻止するために1960年に壁ができて以来、東ドイ

ツから簡単には西ドイツに行くことができなくなってしまった。しかし、年に1度のクリスマスには親族が互いに会いに行くことは許されていたそうです。1989年に壁が崩され、1990年に東西ドイツが統一されてからは現在のような平和な町になったと話されていたのがとても印象的でした。

また、女性の活躍については、ドイツでは今年の3月にクオータ制という女性の割り当制度を課する法律ができ、来年からは108の大企業を対象とし、それぞれの監査役会の30%は女性に占めさせるということになりました。女性が活躍していく上で何が必要なのかと言うと、それを支える社会の考え方やシステムの確立であると話されていました。

市民のライフスタイルについては、彼らは休暇を30日しっかり取得し、会社からも早く帰宅し、家族や家庭を大切にする考えかたが習慣になっているそうです。とてもいいなあと思う事は、ベビーカーを持った女性がバス・地下鉄の段差でこまっている時など、近くの誰かが必ず助けてくれるということです。弱者に対する思いやりは、キリスト教的文化を背景に長く培われてきたことなのだと思います。また、今年は毎日のようにシリアから多数の難民が押し寄せて来ているそうですが、彼らがいかに早くドイツ社会に溶け込むことができるか。それにはまずドイツ語の習得をさせることで、現在そのベースを作っている最中だそうです。

今回の研修旅行は、これまで未知の分野であつたドイツの文化、政治社会問題等に直に触れることのできた本当に良い機会であつたと考えます。そして、研修で学んできたことを今後活動する上で大いに活かしていきたいと思っています。



凝縮された一週間の研修は「一冊の本」に

～ドイツには「漢語」が良く似合う～

白井 優子

それぞれの街にはそれぞれの色風景があり、その土地に住む人々の思いや願い、嗜好や生き方を表していると言われます。ビール色の織り成す街路樹・街並みは、まさしく思い描えていた通りの大きな国でした。東西ドイツ時代を経て統一に至った経緯を思い知ったり、敗戦後の深い色合いを街至る所で垣間見たりすることにより、偉大な国ドイツを確認できました。「富士山には月見草がよく似合う」とは太宰ですが、ドイツには「崩壊・統一・権利・政治教育・民主主義・難民・そして脱原発」など漢語が良く似合う国であると再認識しました。

セピア色の「ドイツ国民に告ぐ」（フィヒテ）一春期断舎利と称し手に取った古本が、ドイツへと導いてくれるとは予想にもしませんでした。かつて教育現場ではペスタロッチ教育同様根強く支持されており、欄外に「道徳教育の大切さ」「家庭教育の重要性」など同メモがあり、「教育」という一本の灯を追う旅も今回の目的ともなりました。

日独センター・日本大使館は、ドイツとの架け橋的役割をしており、日独センターに勤務する若い女性たちの異文化を楽しむようなライススタイルから逞しさを感じました。人同士の関係を築くと文化のギャップは乗り越えられる（文化的受容）と言われています。そのロールモデルを垣間見、次世代にエールを送り後にしました。大使館での音楽の夕べでも、日本からの留学生の演奏に心安らぎ、今後更に羽ばたかろう若者の音色は、一服の清涼剤となりました。

政治センターでは国策として設置し、若者が興味関心を持つようなツールを模索していることなど意気込みを感じました。その実際を「連邦議会」で、次世代への実の場での支援を観ることが出来ました。修学旅行などでの「国会見学」という施設見学でないことは言うまでもありません。

ポツダム大学では、教育制度の複雑化—16の州でも制度化し行史するという仕組み、民主主義を家庭で教えるときには、「決定過程」を指導、機会と場を捉えて民主主義の経験を積み重ねる、権利を教



＝ポツダム大学 キャンパスにて＝

えたり、投票準備のための教育プログラムを決め地域への参画・周辺への働きかけをしたりする事例を具体的に知ることが出来ました。「義務」として家庭での「道徳」はどのようなのかを質問をしたところ、言語の壁は容易には理解させてはくれませんでした。アイデンティティの確立期、10歳での岐路に立つ時点での教育制度選択の支援と変更などの具体例は、今後に課題を残しました。東西ドイツの統一後「グローバル化」は加速化されたと言われます。日本での家庭教育問題などは、世界どの国でも大きな問題なのだと理解しました。

ドイツ女性は「存在感ある」という表現が妥当でしょう。「丁寧に語る姿勢」は、とても新鮮でした。ガイドのバイリンガル女性のさり気無い仕草から、困難さもユーモアに交わす気転からも彼女の後姿は物語っていました。ベルリン市議会、女性企業家、ドイツ連邦での女性たちの笑顔、熱心に語る姿はいつまでも記憶に留めたいものです。

日本の教育現場では、「課題解決的学習」「自ら考え行動できる児童生徒の育成」の課題は個の自立と捉え、目指す具体的目標と掲げてきた経緯があります。「民主主義の捉え方が日本とドイツには違いがある」と説く近藤先生（早稲田大）の書物を再度読み込み日本の現状を具に捉え何処へ向かうのか問うてみたいと思います。最近「18歳選挙権」に向けてのリーフレット」が作成されるということを知り、事象に「遅き」はなく『その時どう動く』が肝心のだと痛感。これまで「中立性」という枠組みに甘え、逃げ腰であったことを戒め、政治教育なるプロローグから関わっていく果敢な姿勢が必須となってきました。短期間での研修にも拘らず、綿密なる事前準備・凝縮された視察内容にご尽力くださった関係者皆様方に、心より感謝申し上げます。

自立を促すドイツの政治教育

梅澤 啓子

男女平等を推進するための活動を続けて何年になるだろう。自分自身では自己流の男女平等を掲げこれまで筋を通してきたつもりでいた。家族や周囲の人達の間にはそれが逆らっているように見え、理解されないまま随分と長い間過ごして来たように思う。しかし、平成12年栃木県の海外研修から入会した“つばさの会”の活動の中で、多くの共有者に出会う事が出来た。そして、栃木県の海外研修が幕を閉じ、自分達で企画し実行した2年に1度のノルウェー・デンマーク・そして今回のドイツ研修は私により多くの学びを授けてくれたことは言うまでもない。今回のドイツ研修、特に“ドイツの政治教育”は日頃私の考えていた通りのものだったし、日本人には身につかぬものだった。それを国の施策の中で実行しているドイツに深く感銘を受けた。

- *相手の話を聞く。
- *色々な考えを知らせる。その際は簡単に判断しない。
- *社会の弱者について考える。
- *若者と会話形式で意見交換する。

これこそ幼児教育のスタートから、家庭教育、学校教育、社会教育の中で培っていかねばならないものと思う。

戦後日本と同じ敗戦国となったドイツの考えたことは、“国を守る一番大切なことは民主主義という事だ”と気づき、国民に民主主義の制度や価値観を教え始めたということだ。そして、二十数年余り政治教育を続けながら、選挙年齢の引き下げを行っていることは、日本との大きな違いがある。政治教育は学校での講演会、ワークショップ、本などで啓発を行っているという。

政治教育センターは、ドイツ連邦に1つと、その他16の州にそれぞれセンターがある。政治教育センターでは、市民の民主主義活動を推進するための研修会を開いている。事前研修での近藤先生のことばが頭をよぎる。そして政治教育には学校内教育と学校外教育があると言われるドイツでこんな光景に出会った。

ガラス張りで作られた連邦議会では、傍聴席では子どもから大人まで、沢山の人が政治教育を受けていた。申し込みさえすれば誰でも受けられ、常時行っているという。

ポツダム大学でも、政治教育について“2012年に16



歳から18歳の若者の投票参加の準備のために、教育プログラムを作り、毎日の生活(学校や職場)の中で教え、興味のある若者への支援をインターネットを活用して教えている”と話を聞くことができた。

ドイツが国をあげて政治教育に取り組み、政府も国民も一緒になって国をよくするための取り組みを行っていることが分かった。

“日本人は反論されるのに慣れていないから、人格を攻撃されていると勘違いし言葉に傷つき、感情的になってしまう。感情でなく、意見についてのディスカッションに慣れるようにしなければならない”日独センターで聞いたことも、政治教育を進めることで大きく変わるのだといえる。この他にもドイツから学んだことは数多くある。

- *家族・休暇を大切に、人生を楽しむことを推進していた(上層部は残業し、若い人たちは定時で帰宅、その為子育てのしやすい環境)
- *2015年3月、強制力を持った女性クォータ制(来年から施行)の法律が成立した。

メルケル首相の元、国民と共に行われようとしている政治は、男女平等はもとより環境や福祉そして子どもから高齢者に平等な考えを持って取り組まれていると肌で感じることができた。日本大使館を訪ねたおり、「ドイツに生活して変わった事は」とお訊ねし「家族と過ごす時間が多くなった」答えを貰った。

フレックスタイム制・クォータ制の導入などが取り入れられ、国民の為の政治が行われる日本を目指したい。

そして、家族と一緒に過ごす時間を多く取れる日が一日も早く訪れる事を願う。



ドイツ研修に参加して

遠藤 照子

今回「ドイツ研修」を計画中の、実行委員長さんとの交流が縁で、私の研修への参加が出来ました。

第1回目のオリエンテーション、那須塩原市小中一貫校への訪問～1泊研修。その他3回の事前研修と打ち合わせを行い、いよいよドイツへの出発を迎えました。

成田を出発しドイツへ到着。ホテルで待っていたのは、通訳をしてくださるとても「ステキ」でチャームな「シュミット」さんでした。

最初の訪問地は「日独センター」でした。この日独センターは、ドイツのコール首相と日本の中曽根首相の時に日本とドイツの交流の場として貢献したという事でした。2人の日本女性が私たちへの説明役として待っていてくださいました。センターの職員数は25名（男9名女16名）で構成され、事務総長（1名）・文化部長（2名）は女性でした。まず、トップが女性であったことに私は目を引かれました。職種の状況も男も女も共に働き、国家として働く女性に対し、その環境（幼児保育等）が整っていること、給与の面についてもある一定の助成がなされていることが伺えました。このセンターの役割は、芸術家への助成コンサート等文化青少年育成。そのほかのプロジェクト「安全会議、医学、電気自動車、通訳の育成、ヤングリーダーフォーラム、環境問題への提起、各種セミナーの開催」等々多機に渡る架け橋。特に日本とドイツとの継続的に1年に1回、日本とドイツ両国間で交互に行われています。問題点は日本と同じ部分もありますが賃金の低さは男社会という事です。

次に訪問したのは「ドイツ大使館」でした。とても穏やかな口調で語られていたことが印象的でした。公使による説明は、日独センターでの内容と重なる部分もありましたが、東西ドイツの件については西はアメリカドイツ系、東はソ連系である事、東西ドイツ時代は大使館付近が最前線であった。現在のドイツは今年の3月に「クオータ制」が決定し、2016年に施工されることにより女性議員の増加が見込まれる事で選挙制に対し新鮮さが伺えました。その他にドイツの国民性なのかとても議論されるこ



とが多く、ここの主張が認められる事が出来る国である。

今現在ドイツでは、シリアからの難民が1万人程度押し寄せている事で、難民に対し非常に手厚く受け入れていることは日本人の私には理解できない事実でもある。またドイツ国民も400万人が流失している国でもある。ドイツでは18歳の選挙権についても、レベルの低い地域については「ミニ集会、出前講座」という選挙への啓発を促す取り組みも紹介されました。大使館については翌日の夜の素敵なコンサートへの参加が思い出に残る1夜のプレゼントになりました。

女性起業家の交流については大きなビルが建っていて、その1室から起業するための内からの教育、支援を行い、企業家になるためのノウハウから相談を受け、フォローを行い、その育成に取り組んでいることが勉強になりました。

その後開かれたベルリン市議会のとても素敵で熱意のある女性副議長との懇談、ドイツの最高機関の「ドイツ連邦議会」での議員の方とのディスカッション、ポツダム大学での教授3名との懇談、盛り沢山のベルリンでの機関の見学と研修。そして、東ドイツ、西ドイツ両国が一つになったことにより、大変な難局を乗り越えて今のドイツがあることを知りました。ドイツと日本の共通面異なった面を経験した実りある研修になりました。

今回の研修を実施していただきました方々に感謝致します。

ドイツと民主主義

大堀 美知

今年の海外研修地はドイツだが、とちぎつばさの会で過去に、男女共同参画社会の実現を学ぶために、先進地ノルウェーとデンマークへ行って来た。

しかし、国の行政のあり方や運営の仕方が、日本と全く違っていて、どこをどう取り込んだら日本の社会で受け入れてもらえるか、戸惑った。

例えばノルウェーでは、女性を守る「男女平等法」があり、差別されない現実があった。人権が守られ、女性も当たり前男性と対等に働き、生活をしてきた。更にもっと驚いたことは、国王も自分で切符を買って電車に乗っていることだ。

デンマークでも、会う人、会う人、口をそろえて「幸せだ」と言う。高齢者福祉施設に行き聞いても、大学に行き教授に聞いても、みな同じことを言う「国はお金を出す、口は出さない。運営は皆で決め、自主的に運営している。費用は無料、管理費も行政が出す」

私たち日本人のこんにちを考えると、あまりにもかけ離れた現実だ。日本では貧困若者が増え続け、結婚すら遠のいている。また貧しい子どもたちも増え続け、教育も平等に受けられないばかりか、食事も満足に食べられない現実がある。

そこで、今年はどこから学ぼうかと皆で相談した結果、より日本に近い国ドイツになった。



また日本では、来年から「18歳選挙権」が行使され、実際に投票が始まる。しかし、そのための政治教育は全く行われていない。ドイツは1970年から18歳投票が行われている。子どもたちへの政治教育も、政府が年齢に応じたプログラムを組んで行っている。学校内でも学校外でも、それぞれに政治教育がある。そして何よりも一番大切な「民主主義」を教えている。国の機関である「ベルリン政治

教育センター」は、民主主義を教えるために設立したという。この様な施設はドイツ全州にあるという。教える手段も日本では考えられない方法だ。幼児には、遊びを通して自分の考えを言えるようにしている。



児童や生徒にも、学年ごとのプログラムがある。教えるに際しても、注意点がある。1つ目の原則「相手の話を聴くこと」2つ目の原則「色々な考えを知らせること。その際は、簡単に判断しない事。そして社会の弱者について考えること」3つ目の原則「若者と会話形式で意見を交換すること」

この様なシステムを日本に取り入れることができるだろうか、頭の中が混乱した。北欧は日本とかけ離れているので、近い国ドイツと考えたが、不覚であった。ドイツも日本とかなりかけ離れ、遠い手の届かない国になっていた。

また政府が選挙用ソフトを作ってホームページで発表している。これはすべての政党から、環境や難民問題など38項目について意見を聞き、政党の意見として公開しているものだ。国民は自分の意見が定まらない時これを見ると、自分の考えが良く分かる仕組みになっている。

日本は来年、18歳以上の若者が選挙権を行使するが、学校内での政治の話は禁止している。どうするつもりなのだろうか。ドイツをお手本にして欲しい。

話は変わるが、ドイツでは今年クォータ制が成立し、来年施行されることになったという。しかしこの制度が無い時すでに、左派党やみどりの党が50%のクォータで約半数が女性議員だ。大臣でも16名中6名が女性である。38%だ。

日本に近い国と考えていたことが間違いだった。ドイツは日本以上に戦中・戦後の苦しい時があった。しかし日本以上に進んでいた。「民主主義」を教え続けているのは“民主主義が国を創り、国を支える”と考えていると、どこへ行っても聞かされる。

今回の研修で、もっと世界から学ぶべきだと痛感した。ドイツに近づくには、どんな努力をすればいいのか、課題を一杯見つけてしまった。

ドイツの暮らし方 (人生を楽しむ) に学ぶ

川井 正枝

共に第二次世界大戦の敗戦国として、同一のスタートラインにいたドイツと日本。

いまやドイツはEUの事実上のリーダーとして、ヨーロッパでは最大の国家の一つになっている。

そのベルリンを公共のバスや、地下鉄を乗り継ぎ研修をした。ビルの立ち並ぶ官庁街や、シュプレー川の畔に残るベルリンの壁、街中に見事に色づいた大樹を待らす公園が目を楽しませ多様な顔を持つ大都市ベルリンを肌で感じることができた。

最初の日本大使館で公使の方の話に、先ず驚ろかされる。

2015年3月、強制力を持った「女性クォータ制」の法律(来年から施行)が成立。これは、家庭生活と仕事の両立を改善する為に、指導的地位を有する女性の割合を高めるための措置を強化するという事。

立法によって、義務化する方向での調整が功を奏したといえる。ドイツも10年間指導的立場の女性比率が殆んど進展せず、実現への強い姿勢がうかがえた。日本もまさに暗中模索の時、学ぶべき導入である。

又、今回の研修では多くの女性に対応して下さった。ベルリン市議会の議員さんとの懇談では、最年少で当選を果たし、議員生活16年目のママさん議員との懇談である。16年前は、女性がテーマになった時、いい加減だったが、今は真面目に話し合えるとの事。

機会均等法も1949年に法整備をしたが、実現は難しい。ただ、将来的には、解決すると思う。等、まだ、課題はやまずみだという事が話からうかがえた。

最後に仕事との両立については、母と政治家の両立は難しい。家族を守るのは大変との本音を聞かせてくれた。しかし、大学でジェンダーを学んだ彼女は女性のテーマを大切に貫いてくれるだろう…強い信念を伝えてくれた。

この席で私が思った事は、日本も同等に封建制度からの縛りか、家庭での役割がまだまだ、女性の肩にかかり、仕事を持っても男性と同等にというわけにはいかない現状がある。

女性が自己犠牲のもとに全てを受容しなければならぬと考えていた時代と、自己の意志により生き方を選べるようになってきた現代では、女性の生き方も変わって欲しいと願ってやまない。

北欧では真の平等社会をつくるために、リブの女性達



の必死の闘争があり、法案化・実現への道のりは決して平坦ではなかったと思うし、今、ドイツが平等社会に向け一歩を踏み出し、女性の地位向上に確実に向かっていることは確かである。

何か、焦りのような思いを感じ「どうすれば日本が平等社会を築けるのか…何を提言出来るのか。」考えさせられた時間でもあった。

そして、日独センターで対応して下さった日本人スタッフの方からは、ベルリンで生活する上で子育て支援の現状や、日本との比較、又、ご主人との文化の違いから生じるすれ違いなど聞く事ができた。ベルリンを受け止め、ドイツの文化を大切にしていることが素晴らしいと思う。対外的に自分をアピールできなければドイツでは生活できない。日本人の奥ゆかしさは、美德ではないのだろう。

だから、私達も海外の現状や文化を知り、良いことを認めるといふ、発想の転換が必要なのだと思う。

環境分野の研修では、市議会が設立(有限会社)したエネルギー・エージェンシーを訪問し、局長から講話をいただいた。

ドイツは、エネルギーの政策を決め、原子力の撤退や、新しいコンセプトとして2020年に40パーセントの二酸化炭素を削減するなどの話があった。

又、ベルリンは大学の街でもあり学生がエネルギーを理解する講演会やワークショップを年に2回程企画される。政治教育と並び、早期教育が大切である事を教えられた。

劣化した電気製品が二酸化炭素を排出するため、社会福祉生活者のソケットや電球なども無料で交換の措置もとっている。

1人1人に意識の高揚を図り、理解することの重要性を教えていただいた。

盛り沢山の研修に、付いていくのがやっとの感が無いでもなかったが、来てみなければ到底理解できない研修であったと思う。生真面目で、しかし優しい国を訪問して得た多くの記録やデータを皆さんに伝えたいと思う。



ドイツと日本の違い

酒井 由理

ドイツ研修に参加するにあたり、何を学んで来たいのか考えました。ドイツで学んだ事を日本で活かす事ができるのか不安のある中、ドイツ研修に参加してきました。バスや地下鉄を使っての移動でしたが、添乗員さんや通訳さんの気遣いで無事に移動することが出来ました。訪問地に移動しながら通訳さんがドイツの説明してくれる場面もあり、有意義な研修になりました。

ドイツの公共機関では、高齢者や妊婦さん、身体の不自由な人に自然と席を譲るそうです。ベビーカーを見ると周りの人が助けてくれます。それに比べて日本人は席を譲る行為が出来ない方が多いです。ベビーカーは邪魔にされ、たたんで乗っています。ドイツ人をみならい、オリンピックまでには使いやすい公共機関に変わったらよいな？と思っています。

訪問先、日本大使館での話ですが、日本人は長く会社に勤めます。しかし、ドイツの人は3～4年で新しい職場に転職します。それはスキルアップとなるそうです。日本のように長く会社に勤務し、その仕事の知識が豊富にあるのと、ドイツのように転職をする事で職業の知識が広がるのと、どちらが良いのか考えさせられる時間でもありました。また、日本人は残業をして会社に尽くしますが、ドイツの人は残業をせず、家庭を大切にします。最近、日本でも夫婦が協力して家事をするようになりました。残業の少ない会社が増えて家庭での時間が増えたら素敵だな？と思っています。

ベルリン市議会では子育てのお話もお聞きしました。ドイツは子どもは3歳まで自分で育てると在宅育児手当がもらえます。保育施設は充実していて入学するまでの3年間は無料です。児童手当も、もらえるそうです。そこで日本の児童手当がどうなっているか調べてみました。日本でも2016年から第2子が幼稚園が半額となり、第3子は無料になることが決定しました。日本の児童手当もドイツに近づいてきたように感じています。

ドイツ連邦議会は予約制となっていて、パスポートを提示しないと入れない所でした。当日は沢山の見学者が来ていて、中でも印象的だったのは多くの若者に会い、議場の傍聴席で講義が行われている光景でした。ドイツでは選挙権は18歳から発生し

ます。日本の20歳からというのは世界的にみても遅い方で、欧州では、ほとんどの国で選挙権年齢が18歳となっています。日本では、選挙権と被選挙権の年齢に分けていますが、ドイツでは、選挙権を持つと同時に被選挙権も発生します。18歳の政治家が現れる可能性もあるそうです。日本でも18歳に選挙権が引き下げられる事になりましたが、政治教育が進んでいない日本で若者の投票をどのように考えていくのか今後の課題だと思っています。



ポツダム大学でも、子供の選挙権の話の伺う事ができました。ドイツでは5年生から9年生までの5年間政治教育の科目があります。また、オンラインゲームもあり、選挙の投票の仕方や選挙の手続きが解るように出来ています。16歳のマックスオンラインホームページもあり、選挙についての知識をつける事もできます。ホームページを作る時は若者に参加してもらい、一緒に作るそうです。日本でも政治教育は必要なのではないでしょうか？ドイツのようにオンラインゲームを作り授業の中で使っていけたら、若者の投票も増えていくような気がします。若者が選挙に興味がないのは選挙の事が理解できていないからではないでしょうか？日本が良くなっていくために出来ることから始められたらいいな？と思っています。

最後に普段から気にしている男女平等について考えていきたいと思います。2015年男女平等度ランキングが発表されました。これは、社会進出や政治参加などにおける男女間の平等度を表しています。また、経済・政治・教育・健康の4つの分野において男女格差をどの程度埋めているかを調査したものです。世界145ヶ国中、ドイツは2014年、12位でしたが2015年は11位となりました。日本は2014年、104位だったのに対し、2015年は101位になることができました。これは日本が頑張った成果だと思います。ドイツの11位には及びませんが日本人の日常生活が男女平等に変わっていくことで、日本に住んでいて良かったと思える国になるような気がします。インターネットで何でも調べられる便利な世の中になり、私自身も講演会や研修などに参加し、日本が住みやすい国になるように身近な所から変える事が出来るように頑張りたいと思っています。

どこまで知ってるドイツのこと

酒井 理帆

196か国中のひとつにドイツという国がありますが、この国の名前を見たとき皆さんは何を想像するでしょうか。まず島国の日本とは違い大陸国ではありますが、日本との面積はほぼ同じです。日本の総面積は377,914km²で世界第60位。対するドイツは357,021km²で世界第61位と以外に日本の方が大きいです。歴史的経過では、両国ともファシズムや軍国主義といった非民主主義的な政治体制に走り、第二次世界大戦において敗戦国となりました。しかし、現在では経済大国となり世界に大きな影響を与えて

います。

その経済においてドイツはヨーロッパ大陸における主要国であり、日本と同じく非常に高い生活水準を誇る

先進国です。これでもピンと来ないという人のために有名どころを紹介したいと思います。今回私たちが滞在したのはベルリンという首都ですが、歴史の授業で習ったはず「ベルリンの壁」があった場所です。今も完全に破壊されたわけではなく、壁の一部や跡も残っています。学者だとアルベルト・アインシュタイン、音楽家だとバッハ、ベートーヴェン、ブラームスをはじめ、ワーグナーやメンデルスゾーンなどを輩出した世界有数の音楽大国でもあります。大学だとポツダム大学が有名で日本と同じ勤勉な国民性と思われがちですが、実際現地の人のお話によると仕事では残業はあまりしないようで自分の担当が終わり次第、学校では部活がなく先生も生徒が帰ったらすぐ帰るという感じなようで、勤勉というあまりそうでもないようです。他にもグリム童話からシンデレラ、白雪姫、眠れる森の美女、ラプンツェルはディズニーでも取り扱われ実写映画化もされましたが、ヘンゼルとグレーテル、赤ずきん、ブレーメンの音楽隊、かえるの王さまなども知らない人はほとんどいないのではないのでしょうか。観光名所に



はメルヘン街道という場所があり人気があるようです。このように実は結構有名なものが多い国でもあります。

どんな国かわかってきたところで今回はドイツ人と日本人の違いを比較してみたいと思います。日本人のイメージというと消極的で細かく親切という感じでしょうか。対してドイツ人はとても積極的なようで自分の意見を強く主張します。ディスカッションをよくするのも特徴のひとつです。時計はずれていることも多々あり、時間に寛容なのは1分でも気にする日本人との大きな違いといえるでしょう。親切という面では、日本以上であると思います。それというのも、弱者にとっても親切であり、公共の乗り物ではお年寄りや体の不自由な人が来たら必ずと言っていいほど席を立ち譲ります。話を聴くため訪れた場所では、種類豊富なお茶菓子が必ず用意されており、気遣いが感じられました。性格でもこのような違いが見受けられますが、今回現地を訪れ話を聴いたことで色々なことが日本とは違うのだと体感することができました。やはりこもっているばかりでは自分の中の世界は広がることを知らないままなのだと改めて気づくことができ、外に出ることも成長するうえでは必要になってくることなのだと思います。最近の若者は自分も含め引きこもりがちになってきていると聞くのでそれもこれからの課題のひとつであると思いました。

ドイツの政治教育に魅せられて

寺内 政子

ドイツは日本に似ていると云われています。特に旧西ドイツは、男は仕事・女は家庭と云う性別役割分担意識や家庭の価値を重視する考えが根強くあります。1950～60年代をピークに、70年代から徐々に減っては来ています。日本も同じような傾向をたどっています。一方旧東ドイツは、早くから女性の社会進出が進んでいます。その理由は、経済的な自立を望む女性が多いこと。生活水準を上げるため夫婦二人が働く必要があること。社会主義の時代、90%以上の女性が職業についていました。しかし、出生率は西ドイツよりはるかに高かった。こういった背景には、生活・家庭を優先する国民性があったからです。また、男・女関係なく出来るものが家事をやる。まさに男女共同参画社会です。今回のスタディツアーは、ドイツの政治教育に非常に興味がありました。

家庭では、子どもの躰について、人に迷惑をかけるはいけないが基準です。自分にきびしく自己責任がとれる人を目指しています。日独センターで説明をして下さった桐月さんは、「自己責任」ドイツ人がとても好きな言葉とおっしゃっていました。ベルリン市役所を訪れた際は、家族連れ（お父さん・お母さん・子供二人小学生）が市役所内を見学していました。家庭・学校等政治教育の一環として、市役所を一般市民に開放しています。一番大きな部屋は、イベントに使用。結婚式のために借りることもできます。



負の遺産：ホロコースト記念碑



ドイツ連邦議会議事堂のドーム屋根にて

学校では、テーマを与えそれについてディスカッションをし、意見を引き出す訓練をしている。ドイツの歴史をマンガで勉強し、遊び感覚で政治を学んでいます。また、先生も生徒も一緒に研修を受けています。日本人はディスカッションが苦手といわれています。大いに学ぶところです。

地域社会では、ナチス時代の反省から民主主義の教育を行う目的で作られた官・民の政治教育センターがあります。学生も教師も一般市民の誰もが政治に関しての勉強会が出来るようになっています。若い人達（15才・16才～）が興味のあるテーマを出し合って話し合います。

ベルリンには、苦難の歴史を知るモニュメント（負の遺産）が点在している。国民にありのままの歴史を隠すことなく身をもって考えてほしいからです。市民の非政治的態度がナチズムを生んでしまったという反省から歴史認識や右翼急進主義など現実社会のさまざまな問題を直視する教育を模索しています。

ドイツにはいたるところに政治教育の場があります。日本もいよいよ「18歳選挙権」改正公職選挙法が設立し、来年の夏の参議院選から適用になります。ドイツのように政治教育をしっかり身につけて、臨むことを願います。またドイツでは、1986年緑の党がいち早くクオータ制を導入しました。日本の政治においても早くクオータ制を取り入れて多様な意見が反映出来ることを願います。最近、政治教育の本がマンガで出たことを聞きました。家庭に教育の場に遊び感覚で学べるものが沢山ほしいです。

ドイツ女性の生き方を探る旅に参加して

中里 聖子

ドイツ最大の都市で首都であるベルリンは人口590万人に達し、190ヵ国を超える海外出身者が暮らしています。ベルリンはかつてプロイセン王国や、ドイツ帝国や、ヴァイマル共和政、そしてナチス・ドイツの首都でした。しかし第二次世界大戦後、東ドイツの首都である東ベルリンと西ドイツの飛び地で周辺をベルリンの壁で囲まれた西ベルリンに分断されました。

1989年、ベルリンの壁崩壊で再統一されたベルリンは再び首都となり、現在では「世界で最も居住に適した都市」として知られています。

ドイツは福島原発の事故後脱原発を決定し、再生可能エネルギーを推進しています。連邦議会の屋根にも太陽光パネルが設置されているのには驚きました。歴史ある建物に太陽光パネル……アンバランスではありますが、再生可能エネルギー推進に力を注いでいる国策が伝わってきました。

在ドイツ日本大使館は大使官邸の敷地内に公邸があり、第二次世界対戦時、日・独・伊三国同盟を結ん



でいた日本の力が絶大であったことの象徴とのことでした。

ベルリンの壁の一部をモチーフとして残したベルリン市議会の議場、外観にプロイセン時代の面影を残し透明な政治を目指したガラス張りの議場が印象的だった連邦議会、どちらもベルリンの今までの歴史を振り返り、明るい未来を目指す建築物でした。

ブランデンブルグ門、ホロコースト、ポツダムサミットが行われたツェツィーリエンホーフ宮殿はドイツの歴史だけでなく、世界の歴史に触れた気がしました。また、幼少の頃図鑑で見たサンスーシー宮殿はまた会えたねという気持ちになりました。

二人の女性の政治家との懇談では理想の政治を身近に感じ、デパートでの買い物ではファッションセンスを磨くきっかけができました。地下鉄やバスに乗り、ベルリン市街を散策することで改めて電線地中化により街並みが素晴らしさを増すことに気がきました。

たくさんのことに気づき、たくさんのことを感じる事ができた今回のドイツ研修はとても充実していました。計画から実行までお骨折りをいただいた執行部の皆様に心より感謝申し上げます。



ベルリンの空

橋本 薫

私たちがベルリンのテーゲル空港に降り立ったのは、夜のとばりが下り空気が冷たく感じる頃でした。とちぎつばさの会の海外研修に参加するのも初めて、ヨーロッパの地に足を踏み入れるのも初めて、初めてづくしの、これから始まる研修に胸躍らせ、それと同時に気の引き締まる思いでした。

面積・GDP・自動車輸出台数・出生率・高齢（65才以上）化率・几帳面で勤勉な国民性と、日本とドイツは似ている所がたくさんあります。一方で、個人主義で自己主張でき長期休暇を取り人生を楽しむドイツ人とそうでない日本人というような大きな違いもあります。ドイツではディスカッションは意見を一つにまとめるためのものではなく、それぞれの意見を尊重し自分の考えを確認する手段であるので、意見を述べるのが重要です。外国に囲まれているドイツと海に囲まれている日本の違いを感じました。

また、ドイツ人は弱者に対する思いやりがあり、ベビーカーで公共交通機関を利用する際には必ず手伝ってくれる人がいる、という話を聞き感銘を受けると同時にとても羨ましく感じました。若い人が席を譲るのは当然のことのようで、私たちがバスに乗った時にも3人の少女たちがさりげなく席を立てくれました。

クオータ制の導入によりドイツでは女性議員の割合は増加しています。以前は意識が薄かった女性問題について最近では真剣に取り組んでいるようです。小さな頃は、遊び場の道具や遠足の行き先の選択を通じて民主主義の練習をし、その後は、出版物やホームページ・フェイスブック等で政治について興味を抱かせるような教育をしているそうです。また、昨年にはオンラインゲームの中で投票できたという話があり衝撃を受けました。イメージというのはマスメディアによって作られていることが多いのでそれを上手に使うという話に納得しました。

企業においても女性の活力を活かすため、大企業の監査役会の女性比率30%、いない場合は空席のままというクオータ制が施行されました。今後益々女性の活躍が期待されます。ドイツでは何回かの転職によりキャリアアップを図っていくようです。男性の育児休暇は企業のイメージアップに繋がります。また、起業という方法によりキャリアアップを図る人もいます。起業の理由は他にも様々ですが最近で



は40%が女性だそうです。女性起業家たちの強い味方が協同組合です。建物内には事務所として借りられる部屋の他、プレゼンテーション室や食堂、幼稚園もあります。現会員1800人中、約100人は起業家ですが他の会員は応援団です。なんと心強いことでしょうか。スライド式の家賃や子どもが遊べる中庭、心配りに感心させられました。

地球温暖化によりベルリンでは2014年、観測史上最も暑い年となりました。京都議定書と福島原発がドイツのエネルギー政策の方向性に深く関わっているようです。エネルギーの地産地消という言葉には非常に考えさせられました。

東西の分離と統合のシンボルとしてドイツのユーロ硬貨の裏面に彫られ、地下鉄の窓の模様にも使われているブランデンブルク門・均整のとれた大聖堂が建つジャンダルメンマルクト・ベルリンの壁・現在ではアメリカ兵とソ連兵に扮した若者が立ち撮影場所となっている検問所・ホロコースト記念碑など、歴史を感じさせる場所がベルリンには数多く残っています。黄金色に染まった菩提樹の街路樹の傍ら新旧の建物が調和して並び、電線の見えない空は青く大きく広がっていました。

意気揚々と働く若い女性の姿に、ドイツの明るい未来が見えたような気がしました。老いも若きも女性も男性も、輝ける明日に向かって進んでいける社会の実現を目指して、小さな努力をたゆまず続けていくことが私たちにできることだと実感しました。

最後になりましたが、私にこの研修のチャンスを与えてくださったとちぎつばさの会の皆さま、私を支えてくださった全ての皆さまに感謝いたします。ありがとうございました。

ドイツ研修で学んだこと

橋本 房子

日本からおよそ9000km。ベルリンへの到着は夕刻。すでに日没を迎えた。

ベルリンの街には美しい夜景が広がっていました。どんな研修になるだろうと大きな期待と少しの緊張を胸にベルリンの飛行場へと降りたちました。

今回のドイツ研修に参加するにあたり、日本でも推進している「女性の輝く社会の実現」をドイツではどのように推し進めているのか、また2015年6月に18歳選挙権の導入が成立したことを受け、すでに導入しているドイツの政治教育に大変興味を持ち、今回の研修に参加させて頂くことにしました。

先ごろ、「女性の輝く社会の実現」に向けて女性の社会進出ならびに活躍の推進をしている日本ですが、国会議員に占める女性の割合が世界各国の中でも最下位グループに位置し、民間企業の役員に占める割合も極めて低いのが現状です。そのような中、注目を集める制度が「クオータ制」。雇用や議員選出などの際に、男女間格差を是正するための方策で、一定枠を両ジェンダーに割り当てる制度です。ドイツでは先だって一部大手企業において女性役員の数を全体の30%以上を義務づける法案が可決されています。今回の訪問先でももちろんその話が議題に上り、女性の活躍への期待が伺えました。しかしながら今のような女性の活躍は20年前では考えられなかったそうで、近年においてマスメディアでの普及活動や女性政治家によるPR活動、女性の起業を支援する活動などにより女性の活躍が認められていったそうです。「女性の輝く社会の実現」には制度の整備はもちろんですが、地道な活動の積み重ねこそ最大の近道ではないかと感じました。

そして、ドイツの政治教育については先述したとおり、すでに18歳から選挙権（州によっては16歳）を導入しているドイツでは、幼少期より政治教育を行っており、学校の授業に「政治教育」の科目があるそうです。「政治教育」では政治のしくみや歴史、時事問題はもちろん、政党の選び方まで多方面から指導が行われます。座学ではなくコミュニケーションを図りながら、個人的な考えだけを押しつけるのではなく、客観的に自分にはない考えも理解した上で、



直面した問題に対し深く言及するような多方面に視野を広げた考え方を育てる指導も行われます。またいくつかの問題において自分の考えはどの政党に近いかなど選択していくことで政党を選ぶなど、政治が身近な存在であること、また自分が政治に参加していることが実感できる教育に感銘を受けました。もちろん若者への教育だけではなく、ドイツでは国や州ごとに設置されている「政治教育センター」があり、国民が政治を理解するためのインフラが整備されたり、政治に興味を持っていない親のためのプログラムもあるとのことで、国、地域、教育現場など各分野で政治教育に力を入れていることが伺え、大変参考になりました。

最後に今回ドイツ研修に参加して、興味深いと感じたのがディスカッションの方法。ドイツの方は議論好きで討論上手だそうで、討論で重要なことは、理路整然とした答えになっているかどうかだそうです。自分の主張を感情的にならず論理的に議題の本質を冷静に見極め、簡潔にはっきり発言するそうです。お手本のような討論ですが、見習いたいと思いました。ドイツ研修はたくさんの収穫がありました。秋にふさわしい実り多い研修となりました。添乗員の水沼さんそしてドイツでの通訳をしてくださいましたシュミットさんありがとうございました。

心に残ったドイツ研修

人見 貞子

2年前にデンマーク研修に参加したが、その時は無我夢中だった。今回のドイツ研修は、ゆとりを持って参加しようと考えた。

しかしベルリンの街を観て感じたことは、もつと歴史を勉強してから参加すれば良かったと、後悔した。ドイツのそして特にベルリンの歴史を知っていれば、もっともっと共感して観ることが出来たのにと、とても残念だった。そこで日本語で書かれていた「ベルリンとポツダム」という本を買ってきて、今読んでいます。

ベルリンの街を巡るたびに、ドイツにも大変な時代があったのだなーと、胸がいっぱいになった。

「ベルリンの壁跡地」

ベルリンの壁は、東ドイツから西ドイツへの増大する難民ラツシュを食い止めるために、築かれた。最初は柵や有刺鉄線だったが、徐々に重厚な壁になった。そのため突然往来が出来なくなり、引き裂かれた家族や友人が、その壁を乗り越えようとし、射殺されるという悲劇が起こった。しかし、壁が造られた1961年から28年後の1989年、突然ベルリンの壁は崩壊した。今はその壁があったところにレンガが埋め込まれ、ラインが引かれている。そのラインをたどれば、いかに無情な政策だったかがうかがい知れる。東と西を往来できる検問所跡地、チェックポイント・チャーリーも負の遺産として残し、過去の事実を公開し、多くの人々に、考える材料を与えている。

「ユダヤ人犠牲者記念館とモニュメント」

私たちが記念館を見学しようと現地に訪れた時は、多くの生徒が順番待ちをしていた。しばらく待ち続けたのだが、なかなか順番が回ってこず、次の訪問予定時間になってしまい、記念館への入場はあきらめ、外のユダヤ人犠牲者のモニュメントを見るだけになった。ドイツはたえず子どもたちに、戦争の悲惨さを見せ、考えさせている。またドイツ連邦議会を訪問した時も、多くの子供たちが議事堂の中の傍聴席に座り、政治教育を受けていた。



このモニュメントは虐殺されたユダヤ人犠牲者に捧げられた記念碑で、2711本のコンクリート製ブロックで表現してあった。

その他、町のあちこちに、写真が展示されていたり、掲示板が設置されていたりして、二度と不幸な過ちを犯さないためにとの固い決意が感じられた。

そんな歴史を乗り越えて、ドイツの女性は頑張っているなーと、感じた。

東ドイツと西ドイツが統一されてからも、思想の違う政治のもとに生きてきた人々との共同は、これまた大変ではなかったかと、頭が下がった。

女性も男性も働くことが当たり前だと生きてきた東ドイツの女性。女性は家の中で家事育児をする事が当たり前だと生きてきた西ドイツの女性。

そのギャップは今でも続き、なかなか改善されていないと聞いた。

しかしその中でも、保育園に預ける権利があると、女性が働くために保育園入園の許可をもらうために、手紙を書いたりカードを送ったりして、必死で活動しているという話を聞いて、凄いなー、たくましいいなー、と感心した。

今回の海外研修は、二日目から足が痛くなり辛かったが、皆様のご協力を得て、何とか最後まで乗りきれた。感謝で一杯です。

私たちが訪問した時は、ドイツも木々が紅葉していて、とてもきれいだった。紅葉を見ていると、とても心が癒された。この癒される気持ちがあつまでも続くといいなーと思った。

アラカルト

ドイツの生活文化 (ベルリンウォッチング)



(犬のフン用ごみ箱)



(自転車専用道路)



(アンペルマン信号機)

アンペルマン



(ドイツ生まれの歩行者用
信号機キャラクター)



(路面電車)

アンペルマンプロフィール (1961年10月13日 ベルリン生まれ)
体重: ちょっと太め 職業: 交通整理 性格: チャーミング、真面目
好きな食べ物: 電気 ペット: 白クマ



(壁を越えようとして犠牲になった人々の慰霊プレート)



(路上や公園におかれているごみ箱)

アラカルト

輝いている女性達（お世話になった方々）



事後研修の記録

第1回事後研修

日時 2015年11月7日（土）

場所 宇都宮市男女共同参画推進センター

1. 反省会
 - ① 事前研修について
 - ② 現地研修について
 - ③ その他
2. フェスタinパーティの参加準備について
11/21（土）発表
 - ① 役割分担
 - ② 啓発チラシ作成
3. 啓発掲示物作成
4. 今後の予定



第2回事後研修

日時 2015年11月21日（土）

場所 とちぎ男女共同参画センター

1. 啓発展示物作成
2. フェスタinパーティ参加発表
3. 成果発表会のチラシ配布



第3回事後研修

日時 2015年12月6日（日）

場所 とちぎ男女共同参画センター

1. 報告書作成
2. その他

第4回事後研修

日時 2015年12月12日（土）

場所 とちぎ男女共同参画センター

1. 報告書作成
2. パワーポイント作成
3. その他



第5回事後研修

日時 2016年1月31日（日）

場所 とちぎ男女共同参画センター

1. 報告書作成
2. パワーポイント作成
3. その他



その後、報告書作成編集会（7回）
パワーポイント作成編集会（5回）

☆成果発表会 2016年2月21日（日）13：30～

参加者名簿

| | | | | | |
|--------|----------|-------|-------|----------|------|
| 相川 美名子 | あいかわ みなこ | 栃木市 | 荒川 栄子 | あらかわ えいこ | 日光市 |
| 臼井 優子 | うすい ゆうこ | 那須塩原市 | 梅澤 啓子 | うめざわ けいこ | 鹿沼市 |
| 遠藤 照子 | えんどう てるこ | 那須塩原市 | 大堀 美知 | おおほり みち | 宇都宮市 |
| 川井 正枝 | かわい まさえ | 栃木市 | 酒井 由理 | さかい ゆり | 芳賀町 |
| 酒井 理帆 | さかい りほ | 芳賀町 | 寺内 政子 | てらうち まさこ | 栃木市 |
| 中里 聖子 | なかざと きよこ | 佐野市 | 橋本 薫 | はしもと かおる | 佐野市 |
| 橋本 房子 | はしもと ふさこ | 鹿沼市 | 人見 貞子 | ひとみ さだこ | 那須町 |

編集後記

3回目となる今回の海外研修は、企画書を完成するまでに、多くの難題が待ち受けていた。

前回同様昨年10月、海外研修実行委員会を立ち上げ、実行委員長の挨拶にもあるように、研修地をドイツに決め、進めていた。しかし早春にシリア難民問題が発生し、またテロが起きた。そのため実行委員の中に不安が広まり一時断念した。世界情勢を注視する中で、ドイツ渡航に一定の可能性が見えたので、計画を復活させた。その後、今度は研修地先との交信がうまく取れない事や、旅行会社との間で十分に話が煮詰められず、時間ばかりが過ぎていった。

そんな困難を経てドイツ研修を行い、ドイツの人々の考え方や生き方から多くの事を学んできた。ドイツは第二次世界大戦で多くの教訓を得た結果、国を挙げて「民主主義」を国民に教え続けている。「民主主義が国を創り、国を支える」と考えている。素晴らしい国創りを私たち日本も真似をしたい。

とちぎつばさの会 海外研修実行委員会一同

とちぎつばさの会 海外研修実行委員会

実行委員長 梅澤 啓子
 副実行委員長 川井 正枝、橋本 喜美子
 事務局長 大堀 美知
 幹事 臼井 優子、荒川 栄子、酒井 由理、人見 貞子、
 野中 直子、坂田 恵、青山 利江、井上 郁子、
 会計 中島 セイ子、寺内 政子

～ドイツ女性の生き方を探る旅～

男女共同参画スタディーツアー



趣旨:「男女共同参画と女性の地位向上」に資するため、現在メルケル首相を据え、社会でも女性の活躍が広まっているドイツで、どのように男女平等を推し進めているのか、また子どもへの教育にどう取り組んでいるのか等を学ぶ中で、自分らしい生き方を実現するための自由を持つドイツの女性や男性の生き方を学ぶ。

訪問研修先

ドイツ連邦議会、ベルリン市庁舎、ベルリン市内某大学、政治教育センター
小中学校、ツェツィーリエンホーフ宮殿（ポツダム会談会場）、ブランデンブルク門、
グリュエネワルト駅「17番線」等々、訪問先例。（受け入れ先の都合により変更有）

事前研修

- 6/7 10:30 オリエンテーション・役割分担
13:30 研修(ドイツについて)講師近藤孝弘氏
早稲田大学教育・総合科学学術院教授
- 7/10～11 宿泊研修(かもしか荘)、小中一貫校見学
- 8/20 国立女性教育会館フォーラム研修
- 9/6 10:00 旅行会社説明会、展示物作成、学習会
- 10/3 10:00 最終打ち合わせ

事後研修

- 11/7 13:00 現地研修反省会、展示物作成、
- 11/21 フェスタ in パルティ プレ報告
- 12/6 報告書編集会

参加資格

- * 男女共同参画社会の実現に寄与する意思のある方
- * 事前・事後研修に参加できる方
- * 研修に耐えうる体力のある方
- * とちぎつばさの会の会員になり一緒に活動の出来る方
- * とちぎつばさの会員

費用：約30万円程度

他 燃油サーチャージ、保険、等

募集人数：20名（公募）
募集期間：4月26日
～5月20日（先着順）

現地研修実施日
10月25日～31日
の7日間

～申し込み先～

とちぎつばさの会海外研修実行委員会事務局
〒320-0806（詳細をご希望の方はご連絡下さい）
宇都宮市中央5-14-6 大堀美知宛
Tel/fax 028-637-3249

主催：とちぎつばさの会海外研修実行委員会
後援：栃木県・(株)下野新聞社・(株)とちぎテレビ（申請予定）

男女共同参画スタディーツアー ～ドイツ女性の生き方を探る旅～

皆さまの参加を
お待ちしております

成果発表会

日時：2016. 2. 21(日) 13:30～15:00

場所：パルティ201会議室

世界ジェンダー格差指数
142カ国中12位のドイツ。

(日本は104位)

選挙年齢は18歳。州によつては、16歳。政治教育を学校内と学校外で行っている。そんなドイツから男女共同参画を学びに行った。

趣旨：「男女共同参画と女性の地位向上」に資するため、現在メルケル首相を据え、社会でも女性の活躍が広まっているドイツで、どのように男女平等を推し進めているのか、また子どもの教育にどう取り組んでいるのか等を学ぶ中で、自分らしい生き方を実現するための自由を持つドイツの女性や男性の生き方を学ぶ。

10/26(月)

- ★ベルリン日独センター
- ★在ドイツ日本大使館
- ★女性企業家との交流

電車



10/27(火)

- ★ベルリン政治教育センター
- ★ベルリン市議会(訪問・館内見学・議員との懇談)
- ★在ドイツ日本大使館にてコンサート鑑賞

バス



10/28(水)

- ★ドイツ連邦議会(館内見学・議員との懇談)
- ★ベルリンエネルギーエージェンシー(講話と懇談)
- ★ベルリン市役所見学

10/29(木)

- ★ポツダム大学(教授と講話、懇談)
- ★ツエツィーリエンホーフ宮殿(城内見学、ポツダム会談会場見学)
- ★サンスーシー宮殿(城内見学、庭園見学)

主催：とちぎつばさの会海外研修実行委員会
後援：栃木県・栃下野新聞社・栃とちぎテレビ

研修前

ドイツ女性の生き方を探る旅
2015年10月25日
～10月31日
男女共同参画スタディーツアー

趣旨: 「男女共同参画と女性の地位向上」に資するため、
現在リアルに自国を据え、社会として女性の活躍が
広がっているドイツで、どのように男女平等を推進してい
るのか、また子どもの教育にどう取り組んでいるのか等
学ぶ中で、自分らしい生き方を実現するための自由を持つ
ドイツの女性や男性の生き方を学ぶ。

ドイツ連邦議会
ブランデンブルク
ベルリン市庁舎
ポツダム大学
ドイツ連邦議会の歴史
ワールドフォーラム

行ってきま～す

ドイツの政治教育に学ぶ

Q なぜ政治教育が始まったか
A 戦後ドイツにおいて民主主義を担う市民を育てるため
連邦政治教育センター 1952年創設

ドイツの政治教育 — 民主主義を守るため

学校外教育と学校教育

政治教育センター

選挙年令 1970年以降 18歳

実施が16州にある

民主主義活動が盛んな国

小学校の場合 5-6年生から教科「政治学」
中学校の場合 教科「政治学」
高校の場合 ①歴史認識 ②歴史意識 ③歴史教育

目標
民主主義の能力 (判断力) 行動力の育成

日本の場合「政治教育」がこれしていない
教育基本法 第14条
「法律に定める学校は、特定の政党を支持し、
又はこれに反対するものの政治教育その他
政治的活動としては従わない」と規定
学校の家庭も政治教育を怠らない

研修後

男女共同参画スタディーツアー
2015
10.25(木)～10.31(日)

ベルリン日独センター
ポツダム大学
ベルリン日独政治教育センター
在ドイツ日本大使館
ベルリン市議会
女性起業家の交流
コンサート鑑賞

ベルリンの街
ポツダム市庁舎(29ヶ所設けられている)
ベルリン日独政治教育センター
ベルリン市議会
ベルリン市役所

ベルリン市役所
ベルリン市議会
ベルリン市役所

ベルリン市役所
ベルリン市議会
ベルリン市役所

ドイツ女性の生き方を探る旅

【ドイツ連邦議会】
政治教育の実際

ポツダム大学
ベルリン日独センター
ベルリン市議会
ベルリン市役所
ベルリン市議会
ベルリン市役所

ベルリン市役所
ベルリン市議会
ベルリン市役所

ベルリン市役所
ベルリン市議会
ベルリン市役所

ベルリン市役所
ベルリン市議会
ベルリン市役所

男女共同参画スタディツアー

とちぎつばさの会 会長 梅 澤 啓 子

TEL. 0289-64-5343
umekeiko@one.bc9.jp